ゆうでんかい YUDENKAI

大阪電気通信大学友電会

大阪電気通信大学同窓会組織

The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University

特集

成瀬　淳 理事長 寄稿

「先人の教えに学ぶ」～技術者の育成は要するに人間性の育成である～

平成27年度　大阪電気通信大学 友電会 通常総会・合同懇親会開催

No.123
2015/5

4/3 Fri.

大阪電気通信大学 入学式

母校・大阪電気通信大学の2015年度の入学式は４月３日、四條畷キャンパスのコナミホールで行われ、1,392人（大学・大学院）が３つのキャンパスに迎え入れられました。

大学歌斉唱

ホールへ入場

新入生宣誓

3/21 Sat.

大阪電気通信大学・大学院 学位授与式

母校・大阪電気通信大学の2014年度学位授与式が3月21日、四條畷キャンパスのコナミホールで行われ、1,069人が新たな人生に向け一歩を踏み出しました。

３人が博士（工学）の学位を受けました。また、中国からの留学生は32人。学位授与式のあと、コナミホールで謝恩会が行われ、成瀬理事長、橘学長に対し謝辞を述べました。

橘学長告辞

博士学位を受けた
岡田裕也さん（右）

大学歌斉唱

華やかに…コナミホール前で

来賓

成瀬理事長祝辞

博士学位記を手にした
高田橋篤史さん（左）と酒井徳昭さん（右）

留学生が謝恩会

Contents

ゆうでんかい

大阪電気通信大学・同窓会組織　友電会会誌

大学学章・スクールカラー紹介 …… 03
編集室より／友電会ホームページに掲示板

成瀬　淳 理事長 寄稿
「先人の教えに学ぶ」
～技術者の育成は要するに人間性の育成である～ …… 04

水本雅晴 名誉教授 インタビュー
「2014 IEEE Fuzzy Systems Pioneer Award」受賞を記念して … 06

平成27年度　大阪電気通信大学
友電会 通常総会・合同懇親会開催 …… 08
会員の動向／第1 ～7号議案
大阪電気通信大学 友電会定款

電通高校同窓会 コーナー …… 19

「大阪電気通信大学 クラブ同窓会」平成27年度 通常総会 議案 …… 20

平成26年度 大阪電気通信大学友電会 支部だより …… 22
■東海総支部新春ボウリング大会・新年会
■奈良支部総会・懇親会
◆「平成27年度 友電会九州支部総会」のご案内
◆「平成27年度 友電会びわこ支部総会・懇親会」のご案内

友電会主催　平成26年度（第35回）海外教育研修報告 …… 24

最終講義 …… 26
■ 情報通信工学部 通信工学科　小南昌信 教授　　■ 工学部 電気電子工学科　岡崎　芳 教授

TOPIX トピックス …… 28
■大阪電気通信大学軽音楽部OB会開催
■福田共和教授が副学長に就任
◆上高地キャンプご案内
◆母校への本返し「OECU古本募金」
◆大阪電気通信大学 軽音楽部OB会・懇親会
◆平成27年度 大阪電気通信大学ホームカミングデー 開催のご案内

平成27年度 大阪電気通信大学　募集案内 …… 30

■ 会誌への投稿や事務局への連絡等は E-mail か FAXで
友電会事務局　FAX:072－824－1197
E－mail:yudenkai@yudenkai.org

2015年5月15日　第123号

発 行 所／ 大阪電気通信大学友電会（大阪電気通信大学同窓会組織）
YUDENKAI The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University
〒572-8530　大阪府寝屋川市初町18番8号
18- 8Hatsu-Machi Neyagawa-City Osaka Japan 572-8530
（友電会直通）TEL：072-824-3111　FAX：072-824-1197
（大学代表）　TEL：072-824-1131　内線 3266
郵便振替番号　00990-5-49361
発行責任／ 友 電 会 会 長　池 本 善 一
編集責任／ 友電会事務局長　柴 垣 佳 明
編　　集／ 藤 田 英 治、野 田 鐘 一
資料提供／ 学校法人大阪電気通信大学、大阪電気通信大学事務局他
寄 贈 先／ 大阪電気通信大学関係先をはじめ他大学同窓会
並びに国立国会図書館逐次刊行物部、その他
購 読 料／ 2年間　1,000円（卒業後3年間は無料配布、総会通知号は全会員に）
印　　刷／ ダイコロ株式会社

大学学章

電子工学・通信工学を中心とする大学の象徴として、原子内電子軌道を図案化したものをバックに、「大学」を白抜き文字で配してある。この純白は、清廉・潔白な人材の育成と、祈りと、希いがこめられてつくられた。

スクールカラー

「モスグリーン」。若き学徒の青春の息吹をイメージしたもので「若葉が映えて、深い緑に成長する」との意味を持つ。

編集室より

■ 会誌121号では、友電会創立50周年記念特集が組まれ、母校草創期「思い出のアルバム」が掲載されました。その中には建設直後のB・C号館などの学舎の写真が載っており、懐かしく思われた方も多いのではないでしょうか。

■ 寝屋川キャンパスは、ここ10年の間に大きく様変わりしました。まず、平成18年には千代田食堂跡地に6階建ての学生ホールが建てられ、生協や食堂が入っています。平成20年には体育館跡地に7階建てのエデュケーションセンターが建設され、寝屋川キャンパスの教室はすべてこの建物に集約されました。その後は、老朽化に伴いB・C号館が取り壊されています。C号館跡地には、会誌122号の表紙で紹介した円形芝生広場ができ、学生の憩いの場となっています。また、B号館跡地にはこの春に移動式バスケットゴール4台が設置されました。

■ 平成27年度の友電会通常総会・合同懇親会は、6月20日(土)に母校寝屋川キャンパスで開催します。是非、この機会に来学して頂き、学生時代に学んだキャンパスの変化を見て頂きたいと思います。

（友電会事務局長　柴垣佳明）

友電会ホームページに掲示板

友電会のホームページに「友電会掲示板」のコーナーがあります。会員の皆さんからの自由な意見を掲載、同窓の集いの広場になればと思っています。母校発展に寄与する建設的なアイデア、提案も歓迎です。卒業以来、母校から遠ざかっている会員の方は、是非、近況報告も兼ねた意見をお寄せ下さい。

成瀬 淳 理事長 寄稿

『先人の教えに学ぶ』

～技術者の育成は要するに人間性の育成である～

（道田貞治 初代学長）

本学は1961年に設立されて以来一貫して実学教育に専念し、今日まで実に4万5千人を超える卒業生を社会に送り出してきました。そして業界の方々には同窓生の皆さんの活躍ぶりと優れた功績について高い評価をいただいていることは会員の皆さんもよくご存じの通りだと思います。これは本学の伝統となっている教職員と学生諸君とが一体となった実技教育、そして「血の通う対話」を通してのバランスのとれた人間教育・人材の育成に不断の努力が為されてきたことによる成果であると確信しております。

これに関連したことですが、友電会誌の2014年5月号に「母校の輝かしい歴史を伝えることは友電会の役目である」と紹介されているのをみつけて、私は早速いくつかの記事を拝読いたしました（「友電会50年の歩み」p.54）。また「友電会から見た学史」というタイトルのDVDを拝見する機会を得ることができました。これらの資料の中には諸先輩がお書きになった、まさに上記の本学の伝統的な教育を傍証するいくつかのキーワードを見い出すことができると思います。

「実学を学ぶための基本となる『実技教育』を重視せよ」という言葉、「根性」、「手に技術を持て」、「ものつくりの心」などのキーワード、「『人間愛』を持った社会に役立つ人間であれ」という訓示など等です。これらの中でも特に私の印象に残ったのは、次の道田貞治初代学長の言葉でした。それは「技術者の育成は要するに人間性の育成である」というフレーズです。

話は変わりますが、私は東日本大震災の後に被災地を慰問した帰路に盛岡に立ち寄り、石川啄木記念館を訪ねました。啄木は1912年肺結核のため小石川区久堅町の借家で波乱に富む26年の短い生涯を閉じましたが、彼の教育に関する問いかけが石川啄木記念館に掲示されています。そして啄木は、教育活動、或いは「教師の活動」の目的を次のように結論づけています。

教育の真の目的は、「人間」を作ることである。決して、学者や、技師や、事務家や、教師や、商人や、農夫や、官吏などを作ることではない。どこまでも人間を作ることである。ただ、人間を作ることである。これで沢山だ。知識を授けるなどは、真の教育の一小部分に過ぎない。

初代学長の遺訓である「技術者の育成は要するに人間性の育成である」という主張は、偉大なる教育者「啄木」の教育論、つまり「教育の真の目的は、『人間』を作ることである」という考えに通じるものであることが確認できると思いました。教育者としての啄木が目指していた「教育の目的」を本学園でも愚直に実践してきたと思うのです。

さて、本学園では更に複雑化している社会のニーズに継続的に応えてゆくためにも、今までの実績に甘んじることなく、更に高いレベルを目指した経営の改革を断行してゆく必要がありますが、その一環として今回学園の土台を構成する建学の精神を更に具体化するために、教職員全員参加によるミッション・ビジョン・バリュー策定プロジェクトを発足させました。本学園は何のために存在するのか（ミッション）、どのような将来像を描くのか（ビジョン）、そして、どのような価値を学生や社会に提供するのか（バリュー）の３点を追及するために、学園の将来を担う中堅教職員で構成する委員会を発足いたしました。この委員会による答申を受けて今後の本学園の発展の基礎となる考えを学園全体で共有し、全教職員の行動指針として位置付けたいと考えております。そしてこれを学園諸活動の求心力の核として位置付け、全員一丸となった動きを生み出してゆく計画です。

これとは別に、私は現在理事会の知恵袋として機能するOECU理事長諮問会議の設立を考えています。本学園の発展に寄与したいという強い思いを持っておられる同窓生の皆さんにもメンバーとなっていただき、ゆくゆくは定期的な会合を持つことも視野に入れて本学園が更に発展していくためのアドバイスやご支援、学園内の諸種活動に対する評価などをしていただきたいと考えています。そしてここで得る様々なアドバイスや知見を法人事務局で整理し、具体的な施策へと反映してまいりたいと考えています。

以上の点を含めて私の学園運営についての考えを「所信表明」としてまとめ、先月教職員の方々や理事、評議員の方々に配布し議論いたしました。もし皆さんの中に、このような動きにご興味をお持ちの方がおられれば共有させていただき、意見を交換させていただきたいと思いますので、是非ご一報ください。

友電会関東総支部総会で
挨拶する成瀬理事長

本学園では今後更に法人・大学・高校が一つに強く纏まって、学園繁栄に向けて一丸となって行動してゆきたいと思っています。同窓会の皆さんには引き続き当学園運営についてのご理解とご協力をいただき、同時に以上のような議論へのご参画を検討していただくよう切にお願いいたします。

成瀬（なるせ） 淳（じゅん） プロフィール

1945年京都市生まれ。1970年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、株式会社日立製作所に入社。1999年ストレージ・システム事業部長、2000年日立データ・システム社社長＆CEO、2003年日立グローバル・ストレージ・テクノロジーズ社社長＆CEO、2006年日立製作所技師長。2009年退職。2010年学校法人大阪電気通信大学理事就任。同監事、副理事長をへて、2014年９月理事長に就任。2015年３月再任。

関東総支部総会に出席した成瀬理事長
（前列左から５人目　2014年10月）

水本雅晴 名誉教授 インタビュー 「2014 IEEE Fuzzy

左から水本先生、安先生、廣谷副会長、池本会長

母校・大阪電気通信大学の水本雅晴名誉教授が「2014 IEEE Fuzzy Systems Pioneer Award」を受賞したのを記念して、友電会の池本善一会長、廣谷　明副会長、安　弘名誉教授が12月10日、神戸に先生を訪ね、“ファジィ”をテーマにお話をうかがいました。

先生は2013年の定年退職後も、日本知能情報ファジィ学会の名誉会員、（財）ファジィシステム研究所特別研究員として活躍しておられます。

まず、この賞について。

【水本】 実は、私はIEEEの会員ではないのです。度量の深い学会ですね。毎年一人か二人受賞するのですが、2014年度は私一人だけでした。本学の電気電子工学科の渡邊俊彦先生が名文の推薦状を書いて下さったお陰です。

先生は「ファジィ」を日本で最初に紹介して広めた功労者ですが、「ファジィ」って、どんなものなのか、簡単に紹介していただけますか？

【水本】 我々が日頃しゃべっている言葉、例えば「暑い」とか「寒い」、「背が高い」とか「低い」とかいった言葉を定量的、数量的に表わそうとする方法なんです。例えば、背の高さを数学的にきっちり表わそうとすると、「175cm以上の人は背が高い」とか言いますね。そう決めたら、174cmの人は背が高くないになってしまいます。実際はそうじゃない、やはり高いんですよね。Yes（1）かNo（0）かでは割り切れないんです。このような言葉を数量的に表そうとしたのがファジィ集合なのです。

図1、2で説明してみます。少年とか青年、中年…という言葉があります。普通、中年は40～60歳というような形で、YesかNoかではっきりと区分けします。ところが、60歳以下が中年で61歳は中年じゃないとなると、1歳違いで大違いということになるわけです。それで、1か0かだけでなく図のように、例えば58歳の中年度が0.8といったように中間値も許すようなカーブで表わす、これがファジィ集合の考え方です。

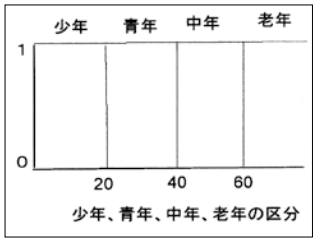


図1

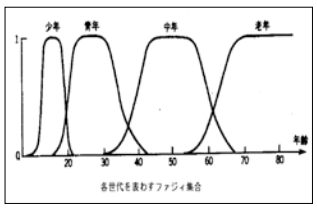


図2

いつごろ、だれが言い始めたんですか？

【水本】 1965年にカリフォルニア大学バークレー校のZadeh教授が提唱しました。今年で50年になります。

ファジィ理論では主観をも対象にします。ところが、今までの数学とか科学では客観的なものを対象にしてきましたから、“こういう主観的なものを取り入れるのはけしからん”というアンチ・ファジィな意見が結構ありました。

Systems Pioneer Award」受賞を記念して

Award ▶

実際には、どう応用されているんですか？

【水本】 例えば、エアコンの制御を考えた時、暑ければ冷房を強くする、ちょうどよければそのままに、寒い時は弱くする…といったように経験的にコントロールしますが、この「暑い」とか「寒い」というのはファジィな言葉なんです。何度以上が暑いのか、何度以下が寒いのか決められませんね。強く、弱く…も同様にファジィな言葉なのです。これに、湿度の要素も入ってきますから、これらの言葉を定量的・数量的に捉えて応用したのが、ファジィエアコンの考え方です。

車の運転のためのファジィ規則もそうです。車間距離が大きく、スピードが速い時は、アクセルはそのままにし、車間距離が小さく、スピードが速い時は、危険だからアクセルを戻しますが、「大きい」とか「小さい」とか、すべてファジィな言葉ですね。

ファジィと意識していませんが、家電製品にも広く使われているんでしょうね。

【水本】 1985年頃から洗濯機、掃除機、炊飯器、扇風機などの家電製品にはファジィ技術が当たり前のように使われ、ファジィ家電として「ファジィブーム」を起こしました。それで、「ファジィ」が1990年新語大賞に選ばれました。現在、仙台地下鉄や大江戸線、秋田新幹線の列車制御、東京都庁のエレベータ群管理など数百の実用例があり、日本が最も盛んです。

先生がファジィを研究し始めるキッカケは何だったのですか？

【水本】 先ほども触れましたが、1965年にカリフォルニア大学のZadeh教授が提唱した3年後、私が阪大大学院の博士課程に入った時、恩師の田中幸吉先生からファジィオートマトンに関する英語の論文を勧められたのがキッカケです。「美人の集合」とか、「背の高い人の集合」とかが論文の中に出てきて、興味を持ちました。

当時は、日本では誰もやっていなかったですね。博士課程2年の時に、雑誌「数理科学」の編集者に出会って、ファジィ数学という面白い分野があるんだと言うと、興味を示してくれまして、「FUZZY代数とその応用」のタイトルで25回連載させてもらいました。それで世間の人がファジィの存在を知ってくれました。

中国で販売された
「模糊数学及其应用」

この連載には後日談がありまして、中国の文化大革命のあと、知らない間に中国語に翻訳され、1984年に本(「模糊数学及其应用」)になっていたのです。この本を読んだ学生がその後、私の研究室に留学生(５人)として来てくれました。今でも日本で活躍しています。

大阪電気通信大学には？

【水本】 1978年から本学の経営工学科にお世話になりました。自由な研究ができてよかったですね。

気になる卒業生はいますか？

【水本】 ファジィ分野に限れば、1997年博士課程修了の東海大学の石岩教授と、2005年修士課程修了の大阪大学基礎工学部の関　宏理助教ですね。共に、学会活動等で頑張っています。

先生は現在は？

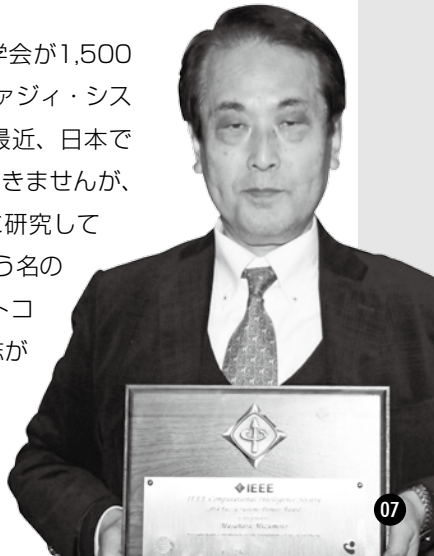
【水本】 九州・飯塚市にある(財)ファジィシステム研究所の特別研究員を拝命しています。

0か1かではなく、人としてのゆとりとか、ゆらぎとかを、ファジィに放り込んで発信できると面白いのでは。

【水本】 ファジィ技術は、人間と機械の間を仲介する手法ですので、今後、人間に係るシステムの開発に重要な役割を果たすものと期待されています。例えば、癒し系のアザラシロボット「パロ」には、人からの主観的な評価を高めるためにファジィ技術が取り入れられています。

ファジィ関連の学会にはどんなところがあるんですか？

【水本】 日本知能情報ファジィ学会が1,500人くらい、バイオメディカル・ファジィ・システム学会が200人くらいです。最近、日本ではファジィという言葉をあまり聞きませんが、台湾とかベトナムとかでは盛んに研究しています。国際的にはファジィという名の付く雑誌が30種類くらい、ソフトコンピューティングという名の雑誌がやはり30種類くらい出ています。



水本先生とAward ▶

平成27年度　大阪電気通信大学

友電会 通常総会・合同懇親会開催

平成27年6月20日(土)　11:40～

母校・水本雅晴名誉教授「2014 IEEE Fuzzy Systems Pioneer Award」受賞記念講演会

平成27年６月20日(土)、「平成27年度通常総会」を母校・寝屋川キャンパスエデュケーションセンター(Ｊ号館)で下記のように開催します。会友お誘いの上、ご家族でご出席をお待ちしております。
友電会総会議事録は、友電会HPで報告します。

昭和40年(1965年)４月に友電会の前身である同窓会組織の「大阪電気通信大学学友会」が創設されて以来、今年４月で満50年を迎えました。そこで、平成27年６月に開催する友電会通常総会と懇親会として、緑樹会(母校教職員同窓会)とクラブ同窓会との合同で開催いたします。

また、総会での記念講演会には、IEEE Computational Intelligence Societyから『2014 Fuzzy Systems Pioneer Award』(パイオニア賞)を受賞しました母校・大阪電気通信大学の水本雅晴名誉教授に「ファジィよもやま話」と題する講演をして頂きます。

● 講演者：水 本 雅 晴　名誉教授

開催概要

◆ 緑樹会、クラブ同窓会、友電会と共催

・テ　ー　マ：**「飛躍」**　～半世紀を越えて更なる飛躍～
・日　　時：平成27年6月20日(土) 10:00～15:30
　　友電会総会　11:40～
　　受 付 開 始　11:00～
・会　　場：寝屋川キャンパスエデュケーションセンターJ号館
・合同懇親会：緑樹会、クラブ同窓会、友電会３団体共催
・会　　費：3,000円
　　同伴者、学生、名誉教授、大学教職員は無料

平成27年度友電会 通常総会議案

第1号議案　平成26年度事業報告
第2号議案　平成26年度収支決算報告
第3号議案　平成26年度一般会計剰余金処分案
第4号議案　平成27年度事業計画案
第5号議案　平成27年度収支予算案
第6号議案　平成27年度役員案
第7号議案　平成27年度評議員案

◆ 6月20日(土)のタイムスケジュール

・各団体　懇親会受付　11:00～

時間	会場・室名(Ｊ号館、ウイング)		
	Ｊ号館		ウイング
10:00	10:00～11:00 クラブ同窓会総会 Ｊ号館 J-515		
11:00			10:40～11:00 第1回全国支部長会 ウイング
			11:00～11:30 友電会第2回理事会 ウイング
12:00	11:40～12:20 友電会総会 Ｊ号館 J-507	11:30～12:20 緑樹会年次総会 Ｊ号館 J-514	
13:00	12:30～13:20 記念講演会 Ｊ号館 J-510		
14:00	13:30～15:30 合同懇親会 Ｊ号館 １Ｆ		
15:30	閉宴		

会員の動向

平成27年４月１日現在　４万8,127人

期／学科	E	G	H	I	J	N	Z	U	P	F	K	RV	A	L	Y	S	Q	W	T	MD	計	物故
1 (S.40)	93	−	−	−	−	−	−	−	−	31	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	124	7
2 (S.41)	193	−	−	−	−	−	−	−	−	88	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	281	14
3 (S.42)	221	−	−	−	−	−	−	−	−	125	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	346	19
4 (S.43)	125	−	−	−	−	−	−	−	−	138	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	263	9
5 (S.44)	84	49	49	53	−	−	−	−	−	115	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	350	9
6 (S.45)	138	92	138	71	−	−	−	−	−	161	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	600	25
7 (S.46)	190	85	136	89	−	−	−	−	−	180	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	680	11
8 (S.47)	175	101	211	108	−	−	−	−	−	183	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	778	15
9 (S.48)	216	190	210	196	−	−	−	−	−	219	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1,031	17
10 (S.49)	161	188	181	151	−	−	−	−	−	194	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	875	16
11 (S.50)	178	178	165	194	−	−	−	−	−	196	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	911	15
12 (S.51)	172	141	167	180	−	−	−	−	−	189	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	849	19
13 (S.52)	200	187	209	164	−	−	−	−	−	210	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	970	19
14 (S.53)	162	161	163	162	−	−	−	−	−	148	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	796	17
15 (S.54)	160	159	186	201	121	−	−	−	−	170	123	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1,120	12
16 (S.55)	144	132	141	164	140	−	−	−	−	141	143	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1,005	13
17 (S.56)	123	133	144	161	128	−	−	−	−	118	141	−	−	−	−	−	−	−	−	−	948	20
18 (S.57)	132	128	139	130	127	−	−	−	−	159	140	−	−	−	−	−	−	−	−	−	955	11
19 (S.58)	124	130	113	121	110	−	−	−	−	151	134	−	−	−	−	−	−	−	−	−	883	10
20 (S.59)	110	97	120	118	139	−	−	−	−	123	115	−	−	−	−	−	−	−	−	−	822	5
21 (S.60)	120	151	130	123	118	−	−	−	−	131	132	−	−	−	−	−	−	−	−	−	905	10
22 (S.61)	142	134	131	147	130	−	−	−	−	129	122	−	−	−	−	−	−	−	−	−	935	10
23 (S.62)	124	133	149	127	130	−	−	−	−	162	141	−	−	−	−	−	−	−	−	−	966	7
24 (S.63)	96	142	121	116	146	−	−	−	−	136	133	−	−	−	−	−	−	−	−	−	890	4
25 (H.元)	137	113	126	150	135	−	−	−	−	124	130	−	−	−	−	−	−	−	−	−	915	5
26 (H. 2)	124	107	124	108	113	−	−	−	−	110	110	−	−	−	−	−	−	−	−	−	796	6
27 (H. 3)	102	140	116	138	130	−	−	−	−	128	116	−	−	−	−	−	−	−	−	−	870	4
28 (H. 4)	99	139	150	144	144	−	−	−	−	152	143	−	−	−	−	−	−	−	−	5	976	4
29 (H. 5)	136	133	109	131	126	−	−	−	−	128	138	−	−	−	−	−	−	−	−	30	931	5
30 (H. 6)	125	134	117	143	146	−	−	−	−	133	132	−	−	−	−	−	−	−	−	42	972	1
31 (H. 7)	145	160	139	149	131	−	−	−	−	148	151	−	−	−	−	−	−	−	−	63	1,086	2
32 (H. 8)	162	148	157	156	154	−	−	−	−	139	139	−	−	−	−	−	−	−	−	69	1,124	0
33 (H. 9)	137	136	148	157	153	−	−	−	−	161	150	−	−	−	−	−	−	−	−	76	1,118	4
34 (H.10)	106	150	123	151	132	−	−	−	−	126	137	−	−	−	−	−	−	−	−	67	992	4
35 (H.11)	129	120	120	9	132	−	−	−	192	127	132	−	−	−	−	−	−	−	−	60	1,021	1
36 (H.12)	125	125	117	−	140	−	−	−	176	132	119	−	−	−	−	−	−	−	−	50	984	0
37 (H.13)	113	142	121	−	126	−	−	−	217	139	137	−	−	−	−	−	−	−	−	80	1,075	0
38 (H.14)	137	119	116	−	131	−	−	−	228	122	131	68	−	−	−	−	−	−	−	92	1,144	1
39 (H.15)	99	121	99	−	132	−	−	−	199	138	110	112	−	−	−	−	−	−	−	95	1,105	1
40 (H.16)	95	105	109	−	116	−	−	−	209	111	117	101	−	−	−	−	189	−	−	95	1,247	0
41 (H.17)	117	80	120	−	91	−	−	−	183	116	74	84	−	95	−	−	172	−	−	99	1,231	3
42 (H.18)	119	81	115	−	99	−	−	−	201	114	81	113	−	100	−	−	178	−	−	109	1,310	0
43 (H.19)	99	80	103	−	102	−	−	−	183	118	72	91	−	95	−	−	157	123	−	118	1,341	0
44 (H.20)	107	75	86	−	109	−	−	−	168	93	81	119	−	100	−	−	136	106	−	100	1,280	0
45 (H.21)	96	75	101	−	97	−	−	−	165	96	86	71	−	149	−	−	140	130	80	104	1,390	0
46 (H.22)	80	74	100	−	90	−	65	−	169	69	57	2	−	120	33	−	124	127	60	101	1,271	0
47 (H.23)	82	44	87	−	89	20	42	−	146	66	29	1	−	118	45	−	91	130	80	133	1,203	1
48 (H.24)	67	45	91	−	97	27	39	−	117	57	5	−	−	87	23	64	91	117	63	137	1,127	0
49 (H.25)	68	43	68	−	75	30	50	−	121	70	−	−	24	85	30	67	107	122	59	101	1,120	0
50 (H.26)	75	64	56	−	81	43	63	−	135	69	−	−	30	60	28	63	85	112	78	104	1,146	0
51 (H.27)	80	1	68	−	66	51	10	70	103	76	−	−	53	73	26	60	84	97	77	74	1,069	0
合計	6,544	5,465	5,989	4,212	4,426	171	269	70	2,912	6,659	3,901	762	107	1,082	185	254	1,554	1,064	497	2,004	48,127	356

● 工学部
- E　電子工学科、電気電子工学科
- G　電子物性工学科、電子材料工学科、応用化学科
- H　電子機械工学科
- I　経営工学科
- J　精密工学科、知能機械工学科、機械工学科
- N　基礎理工学科
- Z　環境技術学科
- U　環境科学科

● 情報通信工学部
- P　情報工学科
- F　通信工学科
- K　応用電子工学科、光システム工学科、光・エレクトロニクス学科

● 工学部２部
- R　電子工学科
- V　機械工学科

● 金融経済学部
- A　アセット・マネジメント学科

● 医療福祉工学部
- L　医療福祉工学科
- Y　理学療法学科
- S　健康スポーツ科学科

● 総合情報学部
- Q　メディア情報文化学科、デジタルアート・アニメーション学科
- W　デジタルゲーム学科
- T　メディアコンピュータシステム学科

● 大学院
- M　前期課程
- D　後期課程

※総合計は、学部卒業生で大学院修了生は重複します。

http://www.yudenkai.org

第１号議案
平成26年度事業報告

・母校では、平成26年３月に第50期生が卒業したあと、平成26年度４月に友電会は創立50周年を迎える記念の年となった。さらに、６月の総会では役員改選を行い、新会長体制のもと「同窓の力を結集して親睦を図り、母校に貢献する」を基本方針に推進する年として活動した。
・母校の支援事業として立ち上げた「友電会企業家同友会」と「教育懇話会」の活動を活発化した。
・「企業家同友会」は卒業生の企業家により平成25年度に立ち上げたもので、産学連携・企業間の交流活動を活発化することにあるが、９月に母校・大阪電気通信大学研究連携センター教員と友電会企業家同友会の交流会を寝屋川キャンパスで開催した。
・これまでの教育部会を発展させた「教育懇話会」は10月、母校の現役大学生と友電会OB教員との教育座談会を開催した。教育座談会では、友電会のOB教職員と将来教育関係の職を目指す学生との懇談会を通して、学校教育に従事する意義や教育者としてのあり方についての意識を深めた。
・機関誌の友電会誌は大学のPRへの協力と友電会活動のPRに欠かせない媒体として活用されているが、本年も「総会通知号」(５月発行)と「新卒生・新入生特集号」(３月発行)の年２回刊行した。
・法人化については、平成26年度友電会通常総会で友電会の法人化への移行推進が決議されたことを受けて移行準備を進めた。
・平成26年７月の第４回理事会において、法人化委員会が設置され、ハードルが低くなった一般社団または一般財団法人の創設を目指し、司法書士による指導の下、法人の種類、目的を協議し、今後司法書士に依頼する定款作成の仕様を明確にしてきた。

■平成26年度事業報告（平成26年４月１日～平成27年３月31日）

■第５条第１項　研究発表会、講習会、座談・懇談会などを開催した

●研究発表会

・大学祭時に「エレクトロニクス展」後援し、ロボット講習会などを支援した。

●講演会・座談会等

・企業家同友会と教育懇話会を開催して懇談を行った。
・総会時、記念講演会を開催した。

◆(平成27年４月～６月)・上記事業を機会あるごとに実施した。

■第５条第２項　機関誌、その他の刊行

・会誌「ゆうでんかい」を２回定期発刊し、さらに50周年記念として秋号(121号)を加え、計年３回の発刊となった。
・「学史編さん室」―母校、友電会の「歴史」を綴っていくとして、秋号(121号)の思い出アルバム特集にまとめた。

◆(平成27年４月～６月)・会誌(総会号)を５月に発刊した。

■第５条第３項　大阪電気通信大学発展のための事業

●母校発展のための事業

・法人理事と法人評議員を送り、母校の経営に参画、発展に協力した。
・卒業生の謝恩パーティーに協力・援助(２月、３月)した。
・「第35次海外教育研修団」を３月(約１カ月間)、カナダのUBC(カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学)に派遣した。
・「後援会・友電会貸与奨学金制度」に出資し拡充、「在学生短期貸付制度」を継続した。
・「第37回卒研室対抗ソフトボール大会」を９月に開催した。

●クラブなど学生団体の活性化と発展のための事業を推進

・クラブ活動助成金を学生課を通して渡し、クラブ活動の活性化と発展に寄与した。

●母校の環境整備の一環として緑化推進

・その他、母校発展のための事業を推進した。

◆(平成27年４月～６月)・上記事業の継続と充実を図った。

■第５条第４項　会員相互の親睦と連絡

●「友電会ネットワーク」

・会員諸氏への情報提供の一環としてホームページを充実させた。特に友電会はもとより、母校の情報を掲載した。

●親睦と連絡関係の事業

・平成26年度総会を６月に開催し、懇親会を「緑樹会」、「クラブ同窓会」と共催して、親睦を深めた。
・母校・学園、その他関連団体等と情報交換を通じ相互理解を図った。
・各支部に助成、現支部の活性化とともに支部の新設推進を図った。
・大学祭時に「友電会サロン」を設置し、来学した会員の休憩・懇親の場を提供するとともに「友電会サロンパーティー」を開催し会員相互の親睦を図り、大学主催のホームカミングデー行事にも協力して参加した。

◆(平成27年４月～６月)機会あるごとに会員相互の親睦と連絡を密にした。

■第５条第５項　その他、目的を達成するための事業

●会議

・平成26年度総会を６月に開催した。
・理事会定例６回、評議員会定例３回、及びそれぞれ臨時の会議を開催し、会の運営、事業・活動を推進した。
・三役会、各部会、各委員会を機会あるごとに開催し、会の運営と事業・活動を行った。
・全国支部長会を開催し、支部活性化と新設を推進した。

◆(平成27年４月～６月)機会あるごとに会員相互の親睦と連絡を密にした。

第２号議案
平成26年度収支決算報告

・平成26年度は、会費を２万円に減額してから４年目となる。入学者数は予想よりも120名多く、会費は240万円増となった。また、これまで大学預かりとなっていた金融経済学部入学者の同窓会費601万円が昨年９月に友電会に支払われ、そのうち514万円を会費に組み入れトータルで3,108万円となった。残りの87万円は、法人化積立金に組み入れた。
・近年、急速に膨らんだ「会議･交通費」を、例年よりも約10%減の262万円で予算化したが、臨時評議員会の開催などで予算より約44万円超過した。
・総会は学内で開催し、一人３千円の懇親会費を集め、予算150万円内に収めることができた。
・機関誌製作費による友電会誌は、総会号(120号)と３月号(122号)の年２回を発刊した。ただし、秋号の121号は思い出アルバム特集として編成したため、「友電会記念事業積立金」から支出した。
・機関誌製作費は総会、ホームカミングデー、大学祭、テクノフェアなどの取材、及び母校支援の一環として大学・高校の募集案内のカラー頁の追加によって予算より約70万円超過した。ただし、会誌に有料の広告を載せたことで、約40万円の収入を得た。
・友電会50周年記念事業のために200万円を「友電会記念事業積立金」に繰り入れ、総会記念品(USBメモリー)の配布や会誌121記念号の発刊に支出した。
・全国大会に出場した軟式野球部の遠征費援助のために、クラブ活動助成金から22.5万円を支出した。
・今年度は会費の収入増などによる240万円や金融経済学部の会費繰入金などを含め、次年度への繰越金は約1,000万円となる。

■平成26年度収支決算報告

（平成26年４月１日～平成27年３月31日）
（単位：円）

◆収入の部

科　　目	平成26年度予算(A)	決　算(B)	差額(B－A)	
運用財産収入	50,000	55,843	5,843	
会費収入	24,000,000	31,080,000	7,080,000	(注)
寄付・広告収入	380,000	400,000	20,000	
緑化募金	0	75,000	75,000	
総会収入(懇親会)	100,000	410,000	310,000	
会誌購読収入	30,000	84,000	54,000	
法人化(予約)会費		870,000	870,000	
友電会記念事業積立金取崩		2,646,876	2,646,876	
雑収入	0	0	0	
前年度からの繰越金	3,456,000	3,456,933	933	
合　計	28,016,000	39,078,652	11,062,652	

(注) 金融経済学部学生の会費(5,140千円)を含む。

◆支出の部

科　　目	平成26年度予算(A)	決　算(B)	差額(A－B)
事務局費	7,970,000	7,984,942	－14,942
給料諸手当(弁護士、会計士等)	3,000,000	2,847,323	152,677
事務費	1,500,000	1,322,717	177,283
諸雑費	50,000	53,046	－3,046
会議費・交通費	2,620,000	3,063,416	－443,416
三役・法人評議員活動費	450,000	412,240	37,760
部会・委員会活動費	350,000	286,200	63,800
事業費	11,960,000	11,859,839	100,161
総会費	1,500,000	1,263,880	236,120
名簿製作費(台帳)	400,000	308,636	91,364
機関誌製作費	4,500,000	5,208,509	－708,509
学史編纂調査費	180,000	180,000	0
通信費	2,800,000	2,652,006	147,994
厚生費	540,000	330,600	209,400
(大学事業・関連事業)	270,000	215,000	55,000
(慶弔費)	270,000	115,600	154,400
支部運営助成費	1,290,000	1,064,000	226,000
(支部長会議費)	40,000	4,000	36,000
(支部開拓費)	90,000	0	90,000
(支部費)	1,160,000	1,060,000	100,000
クラブ活動助成金	250,000	475,000	－225,000
HP関係費	300,000	321,408	－21,408
教育懇話会費	200,000	55,800	144,200
友電会記念事業費	－	2,646,876	－2,646,876
教育・研究助成費	2,400,000	1,495,068	904,932
母校発展促進費	200,000	0	200,000
教育・研究促進費	200,000	160,000	40,000
学内講演(研究)費	200,000	26,900	173,100
準会員助成費	1,800,000	1,308,168	491,832
基本財産繰入金	2,000,000	2,870,000	－870,000
在学生奨学金	2,000,000	2,000,000	0
法人化積立金	0	870,000	－870,000
法人化繰入金	0	0	0
友電会記念事業積立金	1,000,000	2,000,000	－1,000,000
予備費	2,686,000	0	2,686,000
次年度繰越金	0	10,221,927	－10,221,927
合　計	28,016,000	39,078,652	－11,062,652

第3号議案
平成26年度 一般会計剰余金処分案

・平成26年度の一般会計の剰余金は10,221,927円となった。剰余金は「平成27年度への繰越金」として、平成27年度の事業・活動資金とする。

特別会計

■平成26年度海外教育研修 特別会計収支決算書

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
（単位：円）

◆収入の部

前年度からの繰越金	9,191,352
利息・配当金	2,182
合　計	9,193,534

◆支出の部

事務費	432
研修同行費	288,259
会議費	13,500
次年度繰越金	8,891,343
合　計	9,193,534

■平成26年度英会話研修 特別会計収支決算書

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
（単位：円）

◆収入の部

前年度からの繰越金	2,062,650
研修申し込み手数料	0
合　計	2,062,650

◆支出の部

事務費等	0
次年度繰越金	2,062,650
合　計	2,062,650

■平成26年度 海外教育研修・英会話研修 特別会計貸借対照表

（平成27年3月31日　単位：円）

◆収入の部

現金	0
普通預金	0
定期預金	10,953,993
合　計	10,953,993

◆負債・基本財産の部

海外教育研修積立金	8,891,343
英会話研修積立金	2,062,650
合　計	10,953,993

■平成26年度貸借対照表総括

（平成27年3月31日　単位：円）

資産の部 勘定科目		負債・純資産の部 勘定科目	
現金	673,873	法人化準備預り金	5,670,000
普通預金	155,854,017	預り金	1,320,000
定期預金	210,953,993	友電会記念事業積立金	1,353,124
郵便貯金	140,145	基本金	125,067,984
在学生短期奨学金	2,000,000	法人化積立金	285,535,000
在学生奨学基金	70,500,000	海外教育研修積立金	8,891,343
		英会話研修積立金	2,062,650
		剰余金	10,221,927
合　計	440,122,028	合　計	440,122,028

■平成26年度一般会計貸借対照表

（平成27年3月31日　単位：円）

資産の部 勘定科目		負債・純資産の部 勘定科目	
現金	673,873	法人化準備預り金	5,670,000
普通預金	155,854,017	預り金	1,320,000
定期預金	200,000,000	友電会記念事業積立金	1,353,124
郵便貯金	140,145	基本金	125,067,984
在学生短期奨学金	2,000,000	法人化積立金	285,535,000
在学生奨学基金	70,500,000	剰余金	10,221,927
合　計	429,168,035	合　計	429,168,035

■平成26年度一般会計財産目録

（平成27年3月31日　単位：円）

資産の部		負債の部	
1．現金	673,873	1．法人化準備預り金	5,670,000
事務局手元有り高		2．預り金	1,320,000
2．郵便貯金	140,145		
寝屋川郵便局			
3．普通預金	155,854,017		
三井住友銀行／寝屋川	(58,533,847)		
京都信用金庫／寝屋川	(57,129,365)		
三菱東京UFJ銀行／寝屋川	(40,190,805)		
4．定期預金	200,000,000		
三井住友銀行／寝屋川	(190,000,000)		
京都信用金庫／寝屋川	(10,000,000)		
5．在学生短期奨学金	2,000,000		
大学学生課に預け入れ			
6．在学生奨学基金	70,500,000		
奨学金委員会に預け入れ			
資産合計	429,168,035	負債合計	6,990,000
純資産			422,178,035

監 査 報 告

平成27年4月19日

平成26年度事業報告書および平成26年度収支決算書を監査した結果、適正に執行されていることを認めます。

監事　守上芳士
尼丁正寄 ㊞
澤井　剣 ㊞

第４号議案
平成27年度事業計画案

・創立して半世紀を越え、平成27年度に51年目を迎える友電会は、「同窓の力を結集して親睦を図り、母校に貢献する」の基本方針を推進して会員相互の親睦はもとより、母校と会員の絆を深めながら、新たな気持ちで新時代に飛躍する姿勢で、支援協力体制を維持しなければならない。
・本年度も、卒業生の企業家による「友電会企業家同友会」による産学連携・企業間の交流活動を活発化し、さらに[教育懇話会]を活発化して、今後入試と学生の就職支援に繋げていき、母校に寄与できる活動として推進する。
・就職支援活動を積極的に進めていくなかで、母校の正規授業の「キャリア支援講座」などへのOB講師の派遣等を充実し、母校と在学生の求めに対応した支援協力体制を維持していく。
・機関誌の友電会誌は大学のPRへの協力と友電会活動のPRに欠かせない媒体として活用されているが、本年も「総会通知号」（５月発行）と「新卒生・新入生特集号」（３月発行）の年２回刊行体制とする。
・友電会の法人化については、平成26年度友電会通常総会で法人化への移行推進が決議されてから、法人化委員会を設置して準備を進めている。
・まず、今年度はハードルが低くなった一般社団・一般財団法人の創設を目指し、司法書士による指導の下、法人の種類、目的を協議して定款作成の仕様を明確にする。
・さらに、本年度は法人化委員会に選出された7名の委員が中心となって、一般社団法人の創設を目指し、法人の種類、目的をまとめ、司法書士に依頼する定款作成の仕様を作成していくなど、より法人化への移行取り組み活動を活発化する。

■平成27年度事業計画案（平成27年４月１日～平成28年３月31日）

■第５条第１項　研究発表会、講習会、座談・懇談会などの開催

●研究発表会

・大学祭時に「エレクトロニクス展」後援、機会あるごとに研究発表会等に支援する。
・平成27年度に友電会主催として認められた、地域貢献事業のロボット教室を活発化する。

●講演会・座談会等

・機会あるごとに座談会を開催する。
・記念講演会をはじめ、機会あるごとに講演会を開催する。
・母校の正規授業の「工学入門」「キャリア支援講座」へのOB講師の派遣。OB講演者の登録を制度化し、母校の求めに対応していく。
・以上の模様は、友電会誌、ホームページに逐次広報する。

◆（平成28年4月～6月）・上記事業を機会あるごとに実施

■第５条第２項　機関誌、その他の刊行

・会誌「ゆうでんかい」を発刊する。
・「学史編さん室」－母校、友電会の「歴史」を綴っていく。

◆（平成28年４月～６月）・会誌（総会号）を５月に発刊

■第５条第３項　大阪電気通信大学発展のための事業

●母校発展のための事業

・法人理事と法人評議員を送り、母校の経営に参画、発展に協力する。
・卒業生の謝恩パーティーに協力・援助（２月、３月）。
・「第38回卒研室対抗ソフトボール大会」を９月ごろに開催する。

●クラブなど学生団体の活性化と発展のための事業を推進

・クラブ活動助成金を渡し、クラブ活動の活性化と発展に寄与する。

●母校の環境整備の一環として緑化推進

・その他、母校発展のための事業を推進する。

◆（平成28年4月～6月）・上記事業の継続と充実

■第５条第４項　会員相互の親睦と連絡

●「友電会ネットワーク」

・会員諸氏への情報提供の一環としてホームページを充実する。特に友電会はもとより母校の情報も掲載していく。

●親睦と連絡関係の事業

・平成27年度総会を６月に開催し、懇親会を「緑樹会」、「クラブ同窓会」と共催して、親睦を深める。
・母校・学園、その他関連団体等と情報交換を通じ相互理解を図る。
・各支部に助成、現支部の活性化とともに支部の新設推進を図る。
・大学祭時に「友電会サロン」を設置し、来学した会員の休憩・懇親の場を提供するとともに「友電会サロンパーティー」を開催し、会員相互の親睦を図る。大学主催のホームカミングデー行事に協力して参加する。

◆（平成28年4月～6月）機会あるごとに会員相互の親睦と連絡を密にする。

■第５条第５項　その他、目的を達成するための事業

●会議

・平成27年度総会を6月に開催する。
・理事会定例６回、評議員会定例３回開催し、会の運営、事業・活動を推進する。
・三役会、各部会、各委員会を機会あるごとに開催し、会の運営と事業・活動を行う。
・全国支部長会を開催し、支部活性化と新設を推進する。

●その他

・支部との情報交換、母校など関係団体等との交流を通じて、会活動の充実と円滑な運営を推進する。

◆（平成28年4月～6月）上記会議等を機会あるごとに開催し会の運営を図る。

第５号議案
平成27年度収支予算案

・会費を２万円に減額してから５年目となり、平成27年度の入学者は前年度並みと見込む。
・また、昨年度まで大学預かりとなっていた金融経済学部入学者の会費が、今年度から繰り込まれるが、不確定要素もあり、会費収入は平成26年度入試より微減した2,500万円とした。
・例年､大学との協調関係(約束)から行っていた基本財産繰入金(奨学金)200万円の支出が後援会と共同出資により一定の基金まで積み立てたので不要となったが、今後の基金不足が出る事も考慮して奨学金準備金として残して支出する。
・地域社会への貢献活動の一環で在学生を巻き込んだ活動として、３年の実績がある｢友電会主催ロボット教室｣への支援活動費30万円を新設する。
・全国大会に出場するクラブなどの活動を支援するため、クラブ活動助成金を40万円に増額する。
・機関誌製作費は年２回の発刊とし、今年度と同じ450万円とする。
・総会は平成27年度も学内開催として３千円程度の有料化とし、総会費は昨年と同じ150万円とした。
・近年、会議・交通費を例年の約10%減としてきたが、今年度は元に戻し285万円に増額した。
・支部運営助成のうち支部費は、組織部会からの要請もあり、１支部あたり10万円に戻し、支部運営助成費を155万円に増額した。
・今年度は、友電会が1965年４月に創立してから満50周年となるため、平成27年度も友電会記念事業準備金として300万円を計上した。
・予備費は、前年度に繰込まれた金融経済学部会費を含め約700万円とする。

■平成27年度収支予算案

◆収入の部

（単位：円）

科目	平成26年度予算	平成27年度予算	平成28年4～6月
運用財産収入	50,000	50,000	10,000
会費収入	24,000,000	25,000,000	25,000,000
寄付・広告収入	380,000	10,000	0
総会収入(懇親会)	100,000	100,000	100,000
会誌講読収入	30,000	30,000	30,000
雑収入	0		0
前年度からの繰越金	3,456,000	10,221,000	0
合　計	28,016,000	35,411,000	25,140,000

◆支出の部

科目	平成26年度予算	平成27年度予算	平成28年4～6月
事務局費	7,970,000	8,250,000	2,710,000
給料諸手当(弁護士、会計士等)	3,000,000	3,000,000	1,000,000
事務費	1,500,000	1,500,000	500,000
諸雑費	50,000	50,000	10,000
会議費・交通費	2,620,000	2,850,000	1,000,000
三役・法人評議員活動費	450,000	450,000	100,000
部会・委員会活動費	350,000	400,000	100,000
事業費	11,960,000	12,770,000	7,410,000
総会費	1,500,000	1,500,000	1,500,000
名簿製作費(台帳)	400,000	400,000	100,000
機関誌製作費	4,500,000	4,500,000	2,500,000
学史編纂調査費	180,000	180,000	100,000
通信費	2,800,000	2,900,000	2,000,000
厚生費	540,000	540,000	300,000
(大学事業・関連事業)	270,000	270,000	150,000
(慶弔費)	270,000	270,000	150,000
支部運営助成費	1,290,000	1,550,000	160,000
(支部長会議費)	40,000	30,000	10,000
(支部開拓費)	90,000	100,000	50,000
(支部費)	1,160,000	1,420,000	100,000
クラブ活動助成金※	250,000	400,000	250,000
HP関係費	300,000	300,000	300,000
教育懇話会費	200,000	200,000	100,000
ロボット教室活動費	0	300,000	100,000
教育・研究助成費	2,400,000	2,400,000	250,000
母校発展促進費	200,000	200,000	50,000
教育・研究促進費	200,000	200,000	50,000
学内講演(研究)費	200,000	200,000	50,000
準会員助成費	1,800,000	1,800,000	100,000
基本財産繰入金	2,000,000	2,000,000	0
在学生奨学金	2,000,000	0	0
奨学金準備金	0	2,000,000	0
法人化積立金	0	0	0
法人化繰入金	0	0	0
友電会記念事業積立金	1,000,000	3,000,000	0
予備費	2,686,000	6,991,000	0
合　計	28,016,000	35,411,000	10,370,000

予算につきましては、年間の予定額でありますので、千円単位で計上しております。
従いまして、千円未満の端数が予想されるときは、収入は切り捨て、支出は切り上げて算定しています。
※ 学生のクラブ活動支援として学生課を通じて助成。

第６号議案　平成27年度役員案

平成27年度の友電会役員は、平成26年度総会で理事16名と監事３名および顧問５名で承認されたあと、友電会理事会･評議員会で理事が新たに補充されて理事21名となり、監事も1名交代に伴う変更版です。

◎印は部会長　△印は新任理事

● 会　長
- 池 本 善 一（E02）

● 副会長
- 廣 谷　明（F12）　広報部会担当、学校法人理事
- 岡 本 清 孝（H11）　組織部会担当、学校法人評議員
- 辻　佳 彦（H13）　事業部会担当、学校法人評議員

● 事務局長
- 柴 垣 佳 明（D33）　総務・財務部会担当

● 総務・財務部
- 森 石 峰 一（F14）◎△
- 稲 原 廣 法（E07）
- 幸 村 常 一（H16）△　神戸支部長

● 組織部
- 志 村 哲 樹（F07）◎　東海総支部長
- 福 田　武（E02）　九州支部長
- 川 口 明 良（F04）　学校法人評議員
- 山 口 文 男（H07）　関東総支部長、北関東支部長
- 山 崎 敏 之（F14）△

● 事業部会
- 藤 田 英 治（E22）◎
- 藤 本　明（I06）
- 水 谷 元 也（E08）△
- 山崎洋一郎（H10）

● 広報部会
- 吉 田 祐 三（F06）◎△
- 段 安 義 彦（F06）△　京都支部長
- 野 田 鐘 一（F07）
- 澤居比佐夫（H17）△　びわこ支部長

● 監　事
- 守 上 芳 士（E05）・尼 丁 正 寄（F08）
- 澤 井　剣（G24）

● 顧　問
- 臼 井　宏（E01）・猿 渡　洋（F02）
- 宮 本 公 明（F03）・中 西 義 一（E04）
- 中 山　修（F06）

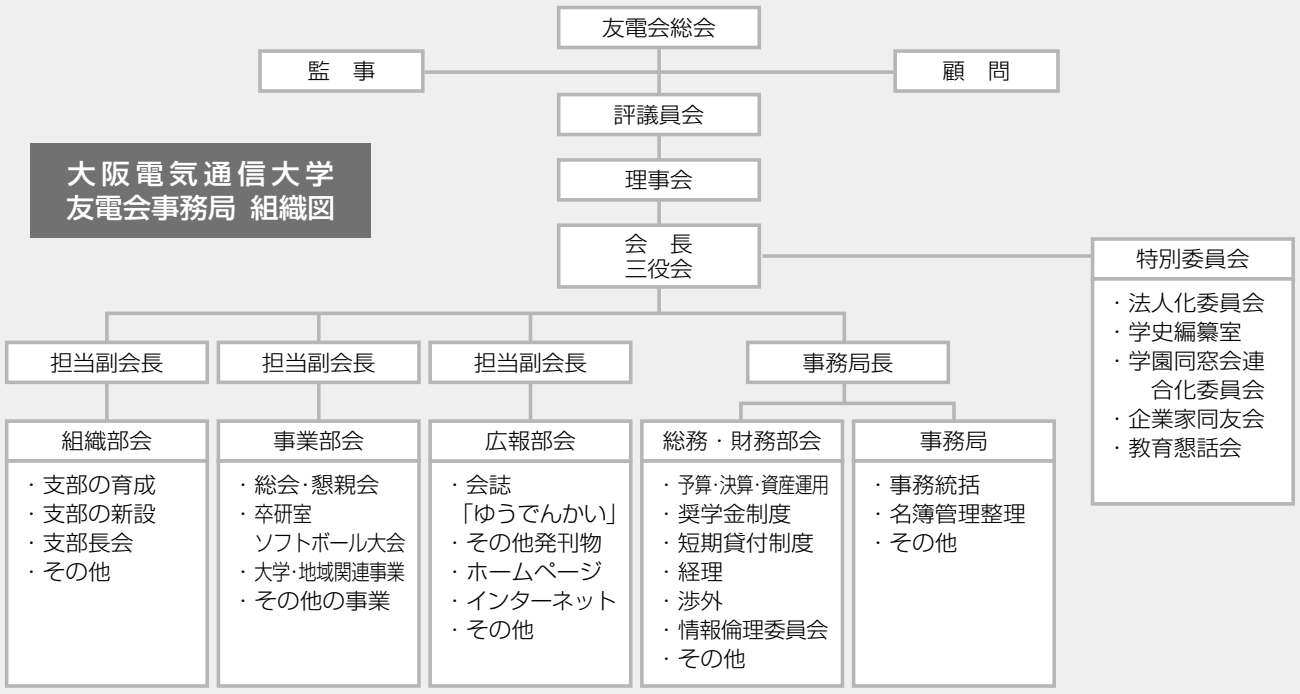
● 学校法人評議員（友電会評議員会選出）
- 畝 本 正 一（E07）　・堀江健二郎（H14）

■ 友電会支部と支部長

支部名	支部長・卒業学科・期	支部名	支部長・卒業学科・期	支部名	支部長・卒業学科・期
関東総支部	山口文男（H07）	東海総支部	志村哲樹（F07）	奈良支部	松井俊樹（I13）
北関東支部	山口文男（H07）	静岡支部	久保田陽一（F05）	神戸支部	幸村常一（H16）
茨城支部	木村功一（F09）	石川支部	辻　久也（I13）	三田支部	小西　巌（F02）
千葉支部	佐藤渉一（I10）	びわこ支部	澤居比佐夫（H17）	九州支部	福田　武（E02）
神奈川支部	田谷利明（F07）	京都支部	段安義彦（F06）	北米支部	高岸英人（F17）

各支部の情報は友電会ホームページで　http://www.yudenkai.org/

大阪電気通信大学 友電会事務局 組織図



第７号議案　平成27年度評議員案

友電会評議員は、新任７名を含む２１７名です。
氏名の後ろに△がある評議員は新任。　（敬称略）

〔第１期生〕
青木政治（E01）
大角武紘（E01）
大塚敏兼（E01）
白岩義則（E01）
高妻泰作（E01）
西原正明（E01）
羽渕完俊（E01）
藤崎紘久（E01）
堀中英昭（E01）
宮崎　孝（E01）
臼井　宏（E01）
安　弘（F01）
國次　茂（F01）
野村康明（F01）

〔第２期生〕
桜木親房（E02）
池本善一（E02）
上杉靖男（E02）
小西　巖（E02）
谷口一雄（E02）
福田　武（E02）
藤野雅也（E02）
猿渡　洋（F02）
本田頌次（F02）
吉田栄治（F02）

〔第３期生〕
稲垣　肇（E03）
富田淳一（E03）
石本時堯（E03）
井上　徹（E03）
竹本信之（E03）
成子一誠（E03）
原　一夫（E03）
中島俊一（E03）
野田哲治（F03）
菅野和夫（F03）
辻　喜代克（F03）
廣沢　洋（F03）
三橋長夫（F03）
宮本公明（F03）

〔第４期生〕
辻　勝久（E04）
北森弘樹（E04）
中西義一（E04）
観野福太郎（E04）
藤原公彦（E04）
大下真二郎（F04）
川口明良（F04）
中島良造（F04）
藤田順彦（F04）

〔第５期生〕
木村正彦（E05）
中尾　稔（E05）
中野正三（E05）
守上芳士（E05）
岩本吉男（F05）
大野一廣（F05）
尾方康祐（F05）
久保田陽一（F05）
山口朝弘（F05）
安田一明（F05）
御崎正吾（G05）
木村幸治（G05）
香西順治（G05）
坂上晃一（G05）
高岡　亨（G05）
玉置　寛（G05）
堀内定夫（G05）
堀井　浩（G05）
薮野美律（G05）
池田　清（I05）
吉川博史（I05）

〔第６期生〕
奥村義美（E06）
兵藤敏夫（E06）△
吉岡　睦（E06）
段安義彦（F06）
吉田祐三（F06）
金谷武美（F06）
小松周治（F06）
田中稲夫（F06）
中山　修（F06）
湯場崎直養（F06）
大下正二郎（G06）
北川　昇（H06）
大川恒一（H06）
阪本和夫（H06）
中田康夫（H06）
松伏正隆（H06）
横道一雄（H06）
前田　實（I06）
荒木秋男（I06）
国松敬三（I06）
藤本　明（I06）

〔第７期生〕
稲原廣法（E07）
五條純一（E07）
宿谷幸男（E07）
宮本常徳（E07）
畝本正一（E07）
蝉　正敏（F07）
志村哲樹（F07）
田谷利明（F07）△
寺田　豊（F07）
野田鐘一（F07）
長谷川　洋（F07）
吉田博由（F07）
中口　武（G07）
松本好史（G07）
一谷　醇（H07）
丹羽弘己（H07）
山口文男（H07）
田甫佐雅博（H07）△
井平佳秀（I07）
平岡　臨（I07）

〔第８期生〕
相羽政信（E08）
石川智之（E08）
水谷元也（E08）
尼丁正寄（F08）
藤井修逸（F08）
鎌谷英一（H08）
新垣忠克（H08）
横木久治（H08）
中出知伸（I08）
宇野茂嗣（I08）

〔第９期生〕
木村功一（F09）
宮崎一幸（F09）
栗栖敏朗（F09）
大音博司（G09）
岡川正寛（H09）
下野哲生（H09）△
森　和明（H09）
工藤英男（I09）
平林一夫（I09）
深野隆司（I09）

〔第10期生〕
井野川　一（E10）
北地憲治（E10）
山崎貞彦（E10）
赤木俊雄（G10）
山崎洋一郎（H10）
佐藤渉一（I10）

〔第11期生〕
松田　啓（F11）
佐脇弘泰（G11）
鬼原治紀（G11）
小舟定行（G11）
岡本清孝（H11）

〔第12期生〕
内野正道（F12）
廣谷　明（F12）
秋田良八（H12）
恩智博司（H12）
小林守正（H12）

〔第13期生〕
朝田健嗣（E13）
榊原秀之（H13）
辻　佳彦（H13）
松井俊樹（I13）
辻　久也（I13）

〔第14期生〕
津本雅章（E14）△
森石峰一（F14）
高田憲幸（F14）
山崎敏之（F14）
倉中　宏（G14）
堀江健二郎（H14）
細川雅巳（I14）
田中二郎（I14）

〔第15期生〕
森蔭剛久（E15）
小寺澤隆司（E15）
江畑栄二（F15）
宮條研次（F15）
皆川重裕（G15）△
沖　洋一（I15）
團　正則（J15）
山下友彦（J15）

〔第16期生〕
岡本宣正（E16）
渡辺員行（E16）
幸村常一（H16）
島田慎太郎（H16）

〔第17期生〕
高岸英人（F17）
園田和之（F17）
國友志保（F17）
澤居比佐夫（H17）
元花　修（H17）
松江　宏（I17）

〔第18期生〕
田中庸介（E18）
生駒京子（I18）
加藤常員（I18）
海野　徹（K18）

〔第19期生〕
竹田治英（F19）

〔第20期生〕
奥田　裕（H20）
阪井　誠（H20）
中川雅弘（H20）
中前浩也（H20）

〔第22期生〕
藤田英治（E22）
竹中　章（J22）

〔第23期生〕
熊谷寿倫（F23）
竹内和生（I23）
三砂博一（K23）
蕭　烱森（K23）△

〔第24期生〕
澤井　剣（G24）
廣瀬修一（G24）

〔第25期生〕
渡部　孝（G25）
松浦信夫（H25）
井口兼彦（H25）

〔第26期生〕
西尾博道（F26）

〔第27期生〕
奥泉大輔（H27）

〔第28期生〕
早野秀樹（E28）
清水　良（F28）

〔第29期生〕
伏本和人（I29）
井内友昭（M29）
森　和義（M29）
松尾賢一（M29）

〔第30期生〕
大野　守（M30）

〔第31期生〕
新川拓也（M31）

〔第32期生〕
中田亮生（D32）
櫻木嘉典（E32）

〔第33期生〕
柴垣佳明（D33）

〔第35期生〕
山村友律（J35）

〔第36期生〕
金野洋明（M36）

〔第39期生〕
澤田正雄（P39）

〔第40期生〕
三上哲夫（M40）

〔第41期生〕
西川達也（M41）

〔第44期生〕
村上豊裕（G44）

〔第45期生〕
竹中浩之（F45）

〔第49期生〕
辻　琢磨（D49）

以上　217名
平成27年4月現在

●新任　7名
兵藤敏夫（E06）
田谷利明（F07）
田甫佐雅博（H07）
下野哲生（H09）
津本雅章（E14）
皆川重裕（G15）
蕭　烱森（K23）

●退任　3名
西村　一（F07）
里内　登（F08）
大平富義（H08）

●死亡退任　2名
高木晴雄（E03）
野村恵章（F04）

亡くなられた会員の方々です

平成26年度中に友電会事務局に届け出のあった方々です。
ご冥福をお祈りいたします。

榎本正義（E01）
高木晴雄（E03）
河田　貢（E03）
野村恵章（F04）
戸田豊明（G10）
渡辺　剛（I10）
園田文嘉（E12）
櫻井政弘（H12）
山根誠一（E15）
内本三千雄（K15）
佐々尾富弥（I16）
福山弘明（K17）
水田泰秀（F18）
金澤悦司（K18）
明田勇一（G26）

以上15名

大阪電気通信大学　友電会定款

第１章　総　　則

第１条　本会は大阪電気通信大学友電会と称する。
第２条　本会は事務所を大阪府寝屋川市初町18番８号大阪電気通信大学内に置く。
第３条　本会は理事会の議決を経て支部を設けることが出来る。支部設置規則は、この定款の細則として別に定める。支部には支部長を置く。

第２章　目的および事業

第４条　本会は大阪電気通信大学と緊密に連繋を保持し、その発展に協力し会員相互の親睦と研修を図ると共に教育、学術、文化の発展に寄与することを目的とする。
第５条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
①研究発表会、講習会、座談会等の開催
②機関誌、その他の刊行
③大阪電気通信大学発展のための事業
④会員相互の親睦と連絡
⑤その他、目的を達成するための事業

第３章　会　　員

第６条　本会の会員は次の通りとする。
①正会員
　学校法人大阪電気通信大学が設置した大学の学部、大学院を卒業、または修了した者で、卒業時あるいは修了時までに所定の入会金および会費を納めた者
②準会員
　学校法人大阪電気通信大学が設置する大学の学部、大学院に在籍している学生で、所定の入会金を納めた者
③特別会員
　学校法人大阪電気通信大学が設置する大学の学部、大学院に専従する教職員である者
④賛助会員
　本会の目的に賛同し、その事業を援助する者で、理事会の承認を得た個人または団体
⑤名誉会員
　本会の目的達成に多くの貢献をした者で理事会の決議を経て推薦された個人
第７条　会員は総会を組織し、総会の議決に加わる。
２、会員は本会の目的事業の遂行に積極的に協力するとともに、本会の会員としてふさわしくない行為をしてはならない。
３、会員は本会の行う事業に対し、優先的にその利益を受けることが出来る。
第８条　会員は次の理由によりその資格を喪失する。
①脱　退
②死亡および失跡宣言
③除　名
第９条　会員が次の各号の一に該当するときは総会の議決を経て、会長がこれを除名することが出来る。
①本会の会員としての義務に違反したとき
②本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為があったとき
第10条　既納の入会金および会費等はいかなる理由があっても、これを返還しない。

第４章　役員、評議員、顧問および職員

第11条　本会には次の役員を置く。
理事10名以上21名以内(うち会長１名、副会長３名、事務局長１名を含む)。
監事３名。
理事および監事は評議員会で選出し総会で承認を得る。
理事は互選で会長１名、副会長３名、事務局長１名を決める。理事は会長の指名により財務担当をはじめとする会務を分担する。
監事は理事を兼任出来ない。
第12条　会長は本会の業務を総理し本会を代表する。
２、副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
第13条　理事は理事会を組織し、この定款に定めるもののほか、総会より委任せしめられた事項は議決し、執行する。
第14条　監事は友電会業務、財産の運用、会計の処理等の監査を行う。
第15条　本会の役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。
２、補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
３、役員はその任期満了後でも後任者が就任するまではその職務を行う。
４、役員は本会の役員としてふさわしくない行為があった場合、または特別の事情があった場合には、その任期中であっても理事会の議を経て評議員会の議決により、会長がこれを解任することが出来る。
第16条　役員は有給とすることが出来る。
第17条　本会には評議員を若干名置く。
２、評議員は評議員会を組織し、この定款に定めるもののほか、総会より委任せしめられた事項を議決する。また理事会の諮問に応ずる。
３、評議員の任期は２年とする。ただし再任は妨げない。
第18条　本会の評議員は次の通りとする。
①正会員のうちから卒業年度別に総会または理事会で選出された者
②支部長
第19条　本会には理事会の議決により顧問を若干名置くことが出来る。
２、顧問は会長がこれを委嘱する。
３、顧問は会長の相談に応ずる。
第20条　本会の事務を処理するため、事務局を設け職員を置くことが出来る。
２、職員は会長が任免する。
３、職員は有給とする。

第５章　会　　議

(理事会)
第21条　理事会は毎年６回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合または理事現在総数の３分の１以上、あるいは監事から会議の目的たる事項を示して請求のあったときは、ただちに会長は臨時理事会を招集しなければならない。
２、理事会の議長は会長とする。
第22条　理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、理事現在総数の２分の１以上出席し、その出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
２、理事は理事会を欠席する場合、あらかじめ書面をもって意見を表明しなければならない。

3、理事の委任状は出席者とみなされない。ただし、支部長が理事を兼ねた場合に限り、当該支部の役員で、理事でない者が委任状を持参のうえ、代理として出席し、議決と執行に加わることが出来る。

（評議員会）

第23条　評議員会は毎年３回会長が招集する。ただし会長または監事が必要と認めたとき、または評議員現在総数の２分の１以上から会議の目的たる事項を示して請求のあったときは、会長はその請求のあった日から20日以内に評議員会を招集しなければならない。

第24条　評議員会の議長は会議のつど評議員の互選で決める。

第25条　評議員会の招集は、すくなくとも10日以前にその会議に付議すべき事項、日時および場所を記載した書面をもって通知する。

第26条　次に掲げる事項については、理事会においてあらかじめ評議員の意見を聞かなければならない。

①事業計画および収支予算案、ならびに事業報告および収支決算についての事項

②不動産の買入れ、または基本財産の処分についての事項

③その他、本会の業務に関する重要事項で会長において必要と認めた事項

第27条　評議員会は評議員現在数の５分の１以上出席しなければ、その議事を開き議決することは出来ない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意志を表示した者は、出席者とみなす。

第28条　評議員会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（総　会）

第29条　通常総会は毎年１回、会計年度終了後90日以内に会長が招集する。

２、臨時総会は理事会または監事が必要と認めたとき、ただちに会長がこれを招集しなければならない。

第30条　会長は会員現在総数の10分の１以上から会議に付議すべき事項を示して、総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に臨時総会を招集しなければならない。

第31条　総会は、すくなくとも10日以前にその会議に付議すべき事項、日時および場所を記載した書面をもって通知する。

第32条　次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

①事業報告および収支決算ならびに事業計画および収支予算

②財産目録および貸借対照表

③その他理事会において必要と認めた事項

第33条　総会は、会員現在総数の200分の１以上出席しなければ、その議事を開き議決をすることが出来ない。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意志を表示した者は出席者とみなす。

第34条　総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第35条　総会の議事の要項および議決した事項は会員に通知する。

第36条　総会、理事会および評議員会の議事録は議長が作成し、議長および出席代表２名以上が署名捺印のうえ、これを保存する。

第６章　資産および会計

第37条　本会の収入は次の通りとする。

①入会金および会費

②事業に伴う収入

③資産から生じる果実

④寄付金品

⑤その他の収入

第38条　本会の資産を分けて、基本財産および運用財産の２種類とする。

２、基本財産は、別紙財産目録のうち、基本財産の部に記載する資産および将来基本財産に編入される資産で構成する。

３、運用財産は、基本財産以外の資産とする。ただし、寄付金品であって、寄付者の指定するものはその指定に従う。

第39条　本会の資産は、理事会の決議によって会長が保管する。

２、基本財産のうち、現金は理事会の議決によって確実な有価証券を購入するか、または定額郵便貯金とし、もしくは確実な銀行に信託するか、あるいは定額預金として会長が保管する。

第40条　基本財産は処分し、または担保に供してはならない。ただし本会の事業遂行上、やむを得ない理由があるときは、理事会および総会の議決を得、その一部に限り処分し、担保に供することが出来る。

第41条　本会の事業遂行に要する費用は入会金、会費事業に伴う収入および資産が生ずる果実等の運用財産をもって支弁する。

第42条　本会の事業計画およびこれに伴う収入予算は毎年会計年度開始前に会長が編成し理事会の議決および総会の承認を受けなければならない。なお、事業計画およびこれに伴う収支予算を変更した場合も同様とする。

第43条　本会の決算は、会計年度終了後３ヵ月以内に会長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書および会員の異動状況書とともに監事の意見をつけて理事会および通常総会の承認を受けなければならない。

２、本会の決算に剰余金があるとき、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、または翌年に繰越すものとする。

第44条　収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは、理事会および総会の議決を経なければならない。

第45条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第７章　定款の変更ならびに解散

第46条　この定款は、理事会および総会おのおの５分の３以上の議決を経なければ変更することが出来ない。

第47条　本会の解散は、理事会および総会おのおの４分の３以上の議決を経なければならない。

第48条　本会の解散に伴う残余財産の処分は理事会および総会おのおの４分の３以上の議決を経てから大阪電気通信大学学長の許可を受けて、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

第８章　補　　則

第49条　この定款施行についての細則は、理事会および評議員会の議決を得て別に定める。

第50条　昭和48年11月１日施行
昭和52年５月29日改正
昭和55年６月29日改正
昭和57年６月27日改正
平成３年６月30日改正
平成５年６月27日改正
平成７年６月25日改正
平成13年６月23日改正
平成16年６月26日改正
平成26年６月21日改正

電通高校同窓会コーナー

NEWS

母校の校長に、同窓会会長 大音博司氏が就任

母校、大阪電気通信大学高等学校の現藤田校長先生は、平成27年３月31日を以て定年退職されました。４月からの新校長として、同窓会会長の大音博司氏が、法人から推薦指名されて就任されました。

大音氏は、大阪電気通信大学を卒業後、大阪府守口市の公立中学校の教諭として就職され、定年まで中学校の教育一筋に奉職されました。この度、縁あって母校の校長職に就任されましたが、まさに適任であると感じます。同窓会としても、歓迎と感謝を申し上げるとともに、今後の活躍を期待し、全面的に支援いたします。

校長に就任した大音氏

高校同窓会のお知らせ

◆ ことしの総会・懇親会は、「大阪弥生会館」で５月16日(土)に開催します。

「ゆうでんかい」誌５月号の発行予定が５月中旬ですので、詳細報告は次号になります。

◆ 同窓会のホームページを再開しています

同窓会のホームページは、長く休眠状態でしたが、昨年４月から、友電会(大学の同窓会)のご好意により、友電会のホームページ内に開設しております。

http://www.yudenkai.org/ (同窓会事務局)

投稿

昭和42年卒業生の同窓会開催報告「半世紀ぶりの同窓会」を開催しました

昭和42年基礎工学科卒業　**酒井**（記）

昨年８月23日(土)、大阪あべの"新宿ごちそうや"において、昭和42年卒業の同期同窓会を開催しました。

有志３名より、是非集まろうとの声が広がり、高校同窓会の事務局協力のもと、同期生捜しから始まり、約４か月かけて連絡を取り合った。電通中学、電通高校と共に過ごした友が近畿一円より26名、母校藤田校長、恩師１名に加えて、同窓会事務局から１名の計29名参加の同窓会となった。

当初から、参加者の顔と名前が一致するか不安を感じて、学生時代の顔写真入りの名札を胸につけて会場へ入場していただきました。初めに他界された恩師と同期生に黙祷をささげて、懇親会が開始されました。

あちこちで、弾む話、肩をたたき合い握手する姿、3時間がアッと言う間に終了しました。お互いの健康を祈念するとともに、再会を約束して閉会しました。

同窓会事務局からのご支援ありがとうございました。

追記：また、本年１月には、「基礎工業科」の同期同窓会を恩師を含めて18名で開催し、旧交を温めました。

昭和42年基礎工業科卒業生

近況・メッセージの投稿をお願いします

会報は、年１回総会に関する案内を兼ねて発行しています。次年度の会報掲載に向けた「近況・メッセージ」の投稿をお願いします。また、HPにも掲載させていただきますので、同窓会事務局あてに送付をお願いします。

同窓会事務局　〒570-0039 大阪府守口市橋波西町１－５-18　大阪電気通信大学高等学校内 高校同窓会　電話 06-6992-6261

「大阪電気通信大学 クラブ同窓会」平成27年度 通常総会 議案

平成27年6月20日(土) 10:00～

● 会場：**寝屋川学舎エデュケーションセンター（J号館）**

会友お誘いのうえ、ご家族でのご出席をお待ちしています。
詳細は裏表紙等をご覧下さい。

■ 平成27年度 通常総会議案

第１号議案　平成26年度事業報告
第２号議案　平成26年度収支決算報告・出納簿
第３号議案　平成26年度監査報告
第４号議案　平成27年度収支予算案
第５号議案　平成27年度事業計画案
第６号議案　当日発議の議案

第１号議案　平成26年度事業報告

＜平成26年度　活動・運営基本方針＞

①学生支援事業の再開(トークショーを含め、新規支援事業を検討)。
②組織フラット化および拡大(各団体・クラブOB会への参画勧誘等)。
③情報発信の強化(各団体・クラブOB会へのFacebook参画勧誘等)。

＜活動・運営基本方針への対応＞

◆ ３月末日：寄付金受領各位への礼状送付。
◆ ６月21日：「平成26年度　通常総会」を開催。
◆ ４～３月：大学祭時に限定せず大学祭協賛事業同等の学生向けイベントを開催。
◆ ４～３月：定例「幹事会」および「三役会」を開催(計年５～６回)。
◆ ４～３月：臨時「幹事会」および「三役会」を開催(必要に応じ)。
◆ ４～３月：各OB・OG会参画勧誘強化。
◆ ４～３月：Facebookによる情報発信の強化。
◆ ４～３月：Facebookメンテナンスのための協力学生とのミーティング・共同作業。
◆ ４～３月：学生各団体・クラブとのミーティングを開催(必要に応じ)。
◆ ４～３月：学生各団体・クラブおよび関係団体からの要請に対する支援(必要に応じ)。
◆ ４～３月：学園・学生主催行事等、関係団体等慶弔時等への出席等(必要に応じ)。
◆ ４～３月：クラブ同窓会役員および関係者への寄付金要請。

第２号議案　平成26年度収支決算報告・出納簿

※次ページに掲載

第３号議案　平成26年度監査報告

※次ページに掲載

第４号議案　平成27年度収支予算案

※次ページに掲載

第５号議案　平成27年度事業計画案

＜平成27年度　活動・運営基本方針＞

①学生支援事業の強化(大学祭、ホームカミングデーを含め、新規支援事業を検討)。
②組織フラット化および拡大(各団体・クラブOB会への参画勧誘等)。
③情報発信の強化(各団体・クラブOB会へのFacebook参画勧誘等)。

＜活動・運営基本方針への対応＞

◆ ４月１日：寄付金受領各位への礼状メールとFacebook掲載。
◆ ６月20日：「平成27年度　通常総会」を開催。
◆ ４～３月：大学祭時に限定せず大学祭協賛事業同等の学生向けイベント開催と支援協力。
◆ ４～３月：定例「幹事会」および「三役会」を開催(計年５～６回)。
◆ ４～３月：臨時「幹事会」および「三役会」を開催(必要に応じ)。
◆ ４～３月：各OB・OG会参画勧誘強化。
◆ ４～３月：Facebookによる情報発信の強化。
◆ ４～３月：Facebookメンテナンスのための協力学生とのミーティング・共同作業。
◆ ４～３月：学生各団体・クラブとのミーティングを開催(必要に応じ)。
◆ ４～３月：学生各団体・クラブおよび関係団体からの要請に対する支援(必要に応じ)。
◆ ４～３月：学園・学生主催行事等、関係団体等慶弔時等への出席等(必要に応じ)。
◆ ４～３月：クラブ同窓会役員および関係者への寄付金要請。

第６号議案　当日発議の議案

以上

■ 平成26年度収支決算報告 <平成26年4月1日～27年3月31日>

（単位：円）

	科　目	決　算	予　算	増　減	備　考
収入の部	寄付金	112,001	200,000	−87,999	幹事・他による寄付
	前期繰越金	30,329	30,329	0	
	合　計	142,330	230,329	−87,999	
支出の部	会議費	0	0	0	
	交通費	15,000	30,000	−15,000	協力学生ミーティング・各事業等
	事務通信費	18,719	5,000	13,719	郵送・弔電等
	大学祭協賛事業費	0	80,000	−80,000	トークショー・大学祭・ホームカミングデー経費
	HP関係費	13,598	60,000	−46,402	協力学生アルバイト・サーバ賃借・通信費
	懇親会費	0	0	0	
	慶弔費	52,700	30,000	22,700	学生各団体・関係各団体祝い金等
	雑費	0	25,329	−25,329	総会開催経費等
	次期繰越金	42,313	0	42,313	
	合　計	142,330	230,329	−87,999	

＜監査役による監査報告＞

大阪電気通信大学クラブ同窓会　平成26年度監査報告書

大阪電気通信大学クラブ同窓会の平成26年度事業報告ならびに平成26年度収支決算報告を監査の結果、何れも会則に従い適正かつ真摯に執行されていることを認めます。

大阪電気通信大学クラブ同窓会
会長　岡本　清孝　殿

平成27年4月18日
大阪電気通信大学クラブ同窓会
監査役　大塚　敏兼 ㊞
監査役　沖　洋一 ㊞
監査役　新川　拓也 ㊞

■ 平成27年度収支予算案 <平成27年4月1日～28年3月31日>

（単位：円）

	科　目	今期収支予算案	前期実績	増　減	備　考
収入の部	寄付金	100,000	112,001	−12,001	幹事・他による寄付
	前期繰越金	42,313	30,329	11,984	
	合　計	142,313	142,330	−17	
支出の部	会議費	0	0	0	
	交通費	20,000	15,000	5,000	協力学生ミーティング・各事業等
	事務通信費	20,000	18,719	1,281	郵送・弔電等
	大学祭協賛事業費	20,000	0	20,000	トークショー・大学祭・ホームカミングデー経費
	HP関係費	25,000	13,598	11,402	協力学生アルバイト・サーバ賃借・通信費
	懇親会費	0	0	0	
	慶弔費	50,000	52,700	−2,700	学生各団体・関係各団体祝い金等
	雑費	7,313	0	7,313	総会開催経費等
	次期繰越金	0	42,313	−42,313	
	合　計	142,313	142,330	−17	

平成27年度役員 （各年次は入学年、年次順）

◆**会　長**
・岡本清孝（S44 柔道部）

◆**事務局**
・金野洋明（H06 柔道部）

◆**幹　事**
・中野正三（S40 卓球部）
・池田　清（S40 少林寺拳法部）
・野田鐘一（S41 日本拳法部）
・平岡　臨（S42 少林寺拳法部）
・志村哲樹（S42 剣道部）
・大音博司（S42 柔道部）
・宿谷幸男（S42 空手道部）
・水谷元也（S43 応援団）
・木村功一（S44 軽音楽部）
・森　和明（S44 電子計算組織研究会）
・船越　亨（S47 柔道部）
・内野正道（S47 柔道部）
・細川雅巳（S48 少林寺拳法部）
・岡川正寛（S48 柔道部）
・宮條研次（S50 ワンダーフォーゲル部）
・元花　修（S52 少林寺拳法部）
・村上豊裕（H16 柔道部）
・竹中浩之（H17 柔道部）

◆**監査役**
・大塚敏兼（S36 ワンダーフォーゲル部）
・沖　洋一（S50 電子計算組織研究会）
・新川拓也（H01 大学祭実行委員会）

◆**学生幹事**
・常任自治委員会委員長・副委員長
・体育会本部本部長・副本部長
・文化会本部本部長・副本部長
・大学祭実行委員会委員長・副委員長
・生協学生委員会委員長・副委員長

◆**顧　問**
・高岡大造（学生部部長）

平成26年度　大阪電気通信大学友電会

支部だより

東海総支部
新春ボウリング大会・新年会

大阪電気通信大学友電会東海総支部は、昨年から恒例化した新春ボウリング大会を、今年も2月14日(土)、名古屋市のスポルト名古屋で開催し、そのあと会場を札幌ビール浩養園に移して新年会を行いました。新年会では、飲み語らいながら、5月開催予定の東海総支部活動に向けて頑張ろうと誓い合い、寒い日でしたが、温かく楽しい1日を過ごしました。

新春ボウリング大会(スポルト名古屋内)で

新春ボウリング大会には９人が参加し、１人２ゲームトータルで競いました。先ず各自の予想スコアを申請し、ゲームのスコア順位、申請スコアとの差異順位、ストライク数の順位から総合順位付けしました。優勝は山下友彦(J15)さん、第２位は野村康明(E01)さん、第３位は宮條研次(F15)さんでした。最多ストライク賞は野村康明(E01)さんが獲得しました。

好スコアに万歳

ボウリング終了後、10分程歩いた所の札幌ビール浩養園で新年会を行いました。支部長の志村哲樹(F07)さんの「明けましておめでとうございます」の音頭でスタートし、飲む程に会話が弾み、あっという間に２時間が過ぎ、新年会を終了し、５月16日(土)に２年ぶり開催される東海総支部での再会を約束して別れました。

新年会会場の浩養園前で

奈良支部
総会・懇親会
～橿原神宮に参拝～

大阪電気通信大学友電会奈良支部の総会・懇親会が2月28日、近鉄奈良駅前の橿原オークホテルで開催されました。また総会に先立ち、橿原神宮の見学会が行われ、

告知

「平成27年度 友電会九州支部総会」のご案内

福岡の歴史の一端を再認識するため、菅原道真公ゆかりの地、太宰府天満宮に参拝･見学後、総会・懇親会を計画しております。

詳細は会場が決まり次第、再度案内しますが、多くの皆様の参加をお待ちしております。

＊日時：平成27年９月27日(日)11：00～15：00
＊集合：西鉄太宰府駅前　11：00
＊研修：太宰府天満宮参拝・宝物殿見学
＊総会：会場未定（太宰府近辺）
＊会費：会員5,000円程度（家族・同伴者無料）

連絡先　**友電会事務局または世話人小松周治 (F06)**
〒811-3215 福岡県福津市花見の里３-14-12　TEL/FAX 0940-43-6094

有志20数人が参拝しました。

橿原神宮見学会は、橿原市観光ボランティアガイドの会に所属する堀内定夫氏(G05)の案内で行われました。晴天の土曜日にもかかわらず、静寂で厳かな雰囲気に包まれた境内を散策し、本殿で正式参拝しました。

橿原神宮一の鳥居

神宮の由来を聞く

参 拝

参拝後の記念撮影

総会は午後3時すぎに開会し、藤田順彦氏(F04)が議長に就任。松井俊樹支部長(I13)から平成26年度活動報告、25年度決算報告、26年度予算報告が行われ、承認されました。

総会後のイベントは、Country Music Vocalistの下野哲生氏(H09)と「ザ・ブルーサンダーボーイズ」の吉岡　睦氏(E06)、山口朝弘氏(F05)によるカントリーミュージックの演奏。日本の歌としても有名な「Molly darling」(冬の星座)、「I Really Don't Want to Know」(知りたくないの)、「テネシーワルツ」などが披露されました。

総会 藤田議長

松井支部長

総 会

神宮のガイドも
つとめた堀内監事

下野氏らによる
カントリーミュージック

告知

「平成27年度 友電会びわこ支部総会・懇親会」のご案内
～ 湖国しがの歴史を訪ねて ～

滋賀県東近江市にある永源寺は瑞石山(飯高山)と愛知川(音無川)の山中、静かに佇んでいる古くから紅葉の名所として名を馳せてきたところで、開山寂室禅師の詩にも「屋後の青山、檻前(かんぜん)の流水」と詠われ、深い自然にいだかれた幽境です。

＊日時：平成27年9月26日(土) 10:00～17:00

＊会場：臨済宗永源寺派永源寺 〈滋賀県東近江市永源寺高野町〉

＊会費：6,000円 (お一人さま)

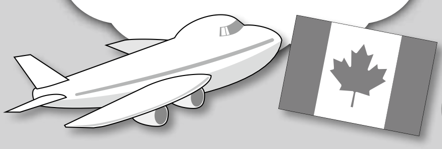
《 申込みメ切 》 9月14日(月) 友電会びわこ支部

問い合わせ先　びわこ支部ホームページ（http://yuudenkai-biwakosibu.jp/biwa/）にアクセスしてください。連絡を受け次第お返事いたします。

【 びわこ支部長　澤居比佐夫 】 E-mail：sawady-k@zeus.eonet.ne.jp

平成26年度(第35回)

友電会主催



海外教育研修 報告

カナダ・バンクーバー　ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)

友電会主催の「平成26年度(第35回)海外教育研修制度」による研修学生25人が新関雅俊電子機械工学科准教授を随行団長として、2月28日から1ヵ月間、カナダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)での研修を終え、3月29日に帰国しました。

なお、友電会による海外教育研修は今年で終わり、来年度からは大学の主催で実施されます。

◆結団式

結団式は2月18日(水)、母校寝屋川キャンパスのA-115大会議室で行われました。

結団式では、まず友電会の池本善一会長が「引率の先生に従って、安全に気をつけながら、楽しく過ごしてきて欲しい」と、激励。橘邦英学長が「ホームステイなどを通じて、英語をうまく話すより、心を込めて相手とコミュニケーションをとることを、ぜひ体験して欲しい」と挨拶しました。

新関雅俊准教授

引率の新関雅俊電子機械工学科准教授は「一生懸命勉強して欲しい」と述べ、最後に学生を代表して中嶋友梧さん(デジタルゲーム学科)が「大阪電気通信大学を代表する自覚と国際人の自覚を持って、常に礼節を守り、学生らしく明るく元気に振る舞い、語学の研修と国際感覚の修得を目指します」と宣誓しました。

学生を代表して宣誓する中嶋さん

＊＊

◆新関先生随行記

第35回海外研修を終えて

海外語学研修団　団長　**新 関 雅 俊**

大学ではさまざまな変化が起こっていますが、その中で35年の長い期間にわたって変わらず、この海外研修が行われてきました。随行教員として協力させていただく機会に恵まれて、この海外研修が学生にとって想像していた以上に有意義なものであることを実感いたしました。参加学生は25名(男子23名、女子2名)で、随行員として私と、アイネッツから山下明彦さんで研修は行われました。

2月28日(土曜日)の早朝9時半に関西国際空港に集合し、友電会の代表者、学生の父母などに見送られる中、ソウル・インチョン空港経由で研修先のカナダ・バンクーバー、UBC(ブリティッシュ・コロンビア大学)に向けて出発しました。予定通りに無事に到着し、その日のうちに各ホームステイ先の家族に迎えられ、ELI(イングリッシュランゲージインスティチュート)での学習が開始されました。

関西国際空港集合

ホームステイ先へ移動

北米大陸の東側が異常気象に見舞われている時期でしたが、カナダのバンクーバーはこれまでに例のない晴天に恵まれました。学生の学習プログラムは教室での授業と校外学習にあてられました。授業初日に小テストと面接によってレベル別のクラスに分けられました。教室での学習以外にも、観光も兼ねて市内に出かけ、博物館・美術館の見学、さまざまなスポーツへの参加、アイスホッケー観戦、料理、ボウリング、映画鑑賞など、現地でしか経験することができない活動に参加することができました。また、学生数名はウィスラーのスキー場へ出かけ、冬季オリンピックが開催された美しく設備の整った場所でスキー・スノーボードを楽しみました。一日かけ

到着後市内観光

レッスン風景

教室風景

て、世界一とも言われるスキー場でのスキーやスノーボードを堪能することができました。さらに、ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリアへの観光にも出かけました。

UBCへ登校

さまざまな場面において学生たちは自ら積極的に活動に参加して、この機会を最大限に活用する努力を重ねていました。語学研修の終了間際になると、現地での生活にはほとんど不自由がないくらいの経験を積むことができました。教室内の学習だけではなくホームステイ先の家族や仲間との交流、観光や買い物の経験などを通して確実な実力を身につけたと実感できたようです。また、日本の他大学の学生や、他の外国から語学研修をしている方たちと多くの交流を持ち、視野が広がったと思われます。学生たちは自分たちの持っている能力や可能性を最大限に発揮して、この研修を有意義なものにしていったと思われます。名残惜しい思いとともにバンクーバーでの研修は終わりました。

ELI校舎

3月28日(土曜日)には午前11時にバンクーバーの空港に集合し、日本に向けて出発しました。3月29日の夜には全員無事に関西国際空港に到着し、友電会、大学、父母に迎えられ、解散いたしました。

文化活動

ロビーで食事

最後になりましたが、この研修が学生とともに随行員として無事に終えられたことは、友電会、大学、UBC、アイネッツ、スカイランドツアーズ関係各位の長年にわたる献身的な助力のおかげであると強く感じております。今後は開催の形式が変わるとお聞きしていますが、今後もこの海外研修がますます発展し、学生にとって有益なものになってゆくことを希望しております。

帰 国

最終講義

母校・大阪電気通信大学を３月末で定年退職する２教授が、寝屋川キャンパスで最終講義を行いました。

最終講義 01

情報通信工学部 通信工学科　小南昌信 教授

「学生と共に歩んだ18年」
～人生は「アクティブ・アレイ」～

前の大学には24歳から50歳まで勤めました。こちらに来させていただいたキッカケは、お亡くなりになりましたが、張年錫先生からの誘いでした。元々はアンテナ屋でしたが、張先生から情報通信ネットワークを担当して欲しいとの話があり、バタバタと大学や学科の様子がよくわからないまま、スタートしたという感じでした。

【鈴江先生と資格取得教育への思い出】

こちらに来て、まず感じたのは、非常に先生方が学生に対して丁寧に接しておられることでした。カリキュラム以外でも熱心に指導されていました。私にカルチャーショックを一番大きく与えた主は、やはり亡くなっておられますが、鈴江久先生でした。卒研生だけではなく多くの学生に資格を取らせるなど指導されており、先生とは熱く語り合い、教育ってこんなふうにやるんだな…と影響を受けました。私の18年はここからスタートしているような気がします。

花束を受ける小南先生

講義する小南先生

カリキュラム外教育についての企画は、金沢工業大学の夢考房をベースにしたようなものでしたが、鈴江先生が提案されて、自由工房の立ち上げに私も関わらせていただきました。当初、無線技術士の講習会、パソコンの組み立て、そしてロボットコンテストへの参加などの活動が行われました。

頭だけで資格を取っても通用しないので、電気工事ならということで、電気工事士の講習会を始めました。実験サポートの方々の協力も得て、資格を取った学生が後輩を教えるという試みもやりました。実験演習では教員とともに大学院生TA、熟練技術者の方々の役割が大きかったと思います。

【研究室活動は卒研生中心で】

研究室の学生たちも頑張ってくれました。様々な受賞をはじめ、PLC関連の卒研が特許にもなりました。成果を狙うという活動も有意義ですが、遊んでみるというこ

とも、特許につながることもあるし、大事なのではないかと思います。

学外向けに何かできないかということで、SPP(サイエンス・パートナー・プロジェクト)の一環として「レーダーの仕組みを学ぼう」をやったり、中学生サマーセミナー、寝屋川市教育センターのキッズ電子教室、門真市子ども理科教室「ノーベル」などにも活動の場を広げていきました。

富田林で地デジ電波障害にからむ裁判があり、フィールド調査を行ったことがあります。最後は和解になりましたが、学生がいなければ、こんなことはできなかったと思います。いい思い出の一つです。

【まとめ】

最近のアンテナは信号処理系のついたものが多く、その結果、欲しい特性になるように重ね合わせるような仕組みになっています。信号は大きく、ノイズは小さく、つまりSN比のいいアンテナです。自分の持っている学力、記憶力、理解力、交渉力などの能力はアンテナ・アレイエレメントに当たります。うまく大きさや位相などをコントロールすると、相手に合わせて能力を発揮できます。人生は「アクティブ・アレイ」…これが私の学生さんたちへのメッセージです。

【 略歴 】
1969年大阪府立大学工学部電気工学科卒業、71年同大学院工学研究科修士課程修了、大阪府立大学電気工学科助手。講師を経て94年助教授。97年大阪電気通信大学通信工学科教授。工学博士。

最終講義 02

工学部 電気電子工学科　岡崎　芳 教授

「大学学生、民間企業、大学教員 50年を振り返って」
～川面に浮かぶ笹船のごとく50年～

母校・大阪電気通信大学工学部電気電子工学科の岡崎芳教授が2月23日に最終講義を行いました。

先生は「大学学生、民間企業、大学教員50年を振り返って」をテーマに、それぞれの時代の経験について講演し、「川面に浮かぶ笹船のごとく50年」と語っていました。会場には電気電子工学科の学生や現職教員、さらに退職された教員も出席されたなか、先生の人柄そのままに笑顔で和やかに語りました。

にこやかに語る岡崎先生

恩師の最後の講義に熱心に耳を傾けていた学生から、「第二の人生は何をされたいですか。」という質問に、岡崎先生は「次は第三の人生ということになり、まだ何がしたいかは決めていないが、出身地の歴史を調べてみたいと思っています。」と笑顔で答えていました。

【 略歴 】
1969年大阪大学工学部電子工学科卒業。75年同大学院工学研究科電子工学専攻博士課程単位取得退学、日本学術振興会奨励研究員。76年三菱電機(株)開発本部LSI開発センター、2001年三菱電機システムLSIデザイン(株)。02年大阪電気通信大学工学部電気電子工学科教授。工学博士(大阪大学)

TOPIX トピックス

大阪電気通信大学軽音楽部OB会開催

大阪電気通信大学軽音楽部OB会は２月14日(土)、母校・ウイングでOB会・懇親会を開催し、引き続き寝屋川市駅前の桜撫庵で懇親会を行い、和気あいあいと昔話に花を咲かせました。

全員で記念写真を撮り、再会を約束しました

OB会には14人が参加し、全員が近況報告を行った後、山本　弘氏(F05)が議長となり進行。三浦聡之会長に代わって新会長に下野哲生氏(H09)を選出しました。下野新会長は「OB会は、同じ音楽を楽しむ人の輪でありたいと思っています。皆様のご協力をお願いします」と語りました。

下野新OB会長(H09)

桜撫庵での懇親会では、半世紀振りの再会もあり、参加者は学生時代にタイムスリップ、おいしい酒を酌み交わしました。

【参加者】(敬称略、数字は期)

①三浦聡之、松岡紀之　②河門恒忠、稲本健司
③岩狭泰彦、水谷栄美　④川真田康弘、越田敏明
⑤平等路政治、西山隷佑、山本　弘
⑦井平佳秀　⑨下野哲生、浜口雅樹

福田共和教授が副学長に就任

2015年２月1日付で、母校・大阪電気通信大学の副学長に福田共和教授が就任しました。

【略歴】

1972年東京大学理学部物理学科卒業、77年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、大阪大学理学部物理学科助手。87年東京大学原子核研究所助教授、97年高エネルギー加速器研究機構助教授。98年東京大学大学院理学系研究科併任助教授。2001年大阪電気通信大学工学部第１部数理科学研究センター教授、07年工学部基礎理工学科教授。09年4月～13年3月工学部長。理学博士、66歳。

２年に一度の

上高地キャンプご案内

今回10回目

主催：大阪電気通信大学体育会
ワンダーフォーゲル部OB会
会　長　坂口　雅
実行委員　猿渡　洋

ワンダーフォーゲル部OB会では、1997年から２年に一度、日本アルプスのメッカ《上高地》でワンゲルのOB会を開催しています。
今年は、従来の８月第一土曜日 **８月１日(土)～８月２日(日)** 開催致します。
そして、今回は **記念の《10回目》** となります。
ワンゲルOBの皆さんはもちろん、友電会、クラブ同窓会、大学教職員の皆さんにも参加いただき、大いに盛り上げて下さい。

河童橋から梓川と穂高連峰を望む。
今年もここで、乾杯！しよう!!

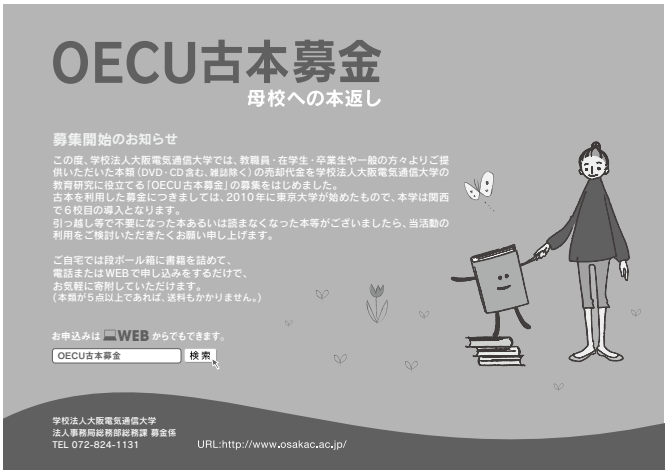
【日程】　平成27年**８月１日(土)～８月２日(日)**
【集合】　**８月１日(土)夕方４時　上高地 小梨平キャンプ場**（河童橋から徒歩約10分の所です。）
【解散】　**８月２日(日)朝８時頃　朝食後、現地解散**
【会費】　**10,000円**（宿泊費、夕食、朝食費含む　交通費は別）　**同伴の大人　5,000円　子供さん**(中学生以下　無料)
＊金額は予定案です。参加人数により、変更あります。

連絡先　**猿渡まで**(メール返信もOK)　**TEL/FAX 049-285-9707　E-mail：h-saru@sa3.so-net.ne.jp**

お知らせ

母校への本返し

母校・大阪電気通信大学は、このほど「古本募金」を始めました。不要となった書籍等の寄付を呼びかけています。



OECU古本募金

「OECU古本募金」は、卒業生・在学生・保護者・教職員・一般の方々から書籍を募集。その買い取り金額を教育・研究に必要な書籍の購入費に充当する取り組み。書籍の他に見終えたDVDやCDも含まれています。

送付方法は、段ボール箱に書籍等を詰め、電話またはWEBで申込み送付。書籍等が５点以上であれば送料は不要。

● 申込問合せは下記まで

学校法人 **大阪電気通信大学**
法人事務局総務部総務課 募金係
電話 072-824-1131
http://www.osakac.ac.jp/

大阪電気通信大学 軽音楽部OB会・懇親会

OB会

日時：平成27年６月20日(土) 12時30分～

場所：大阪電気通信大学寝屋川学舎「ウイング会議室」
（グラウンド裏門側 近く）

懇親会

時間：13時30分～

会場：友電会懇親会会場

会費：3,000円

【 申込受付 】　山本　弘　E-mail：takumihands@nifty.com

卒業生のみなさま、お帰りなさい。

平成27年度 大阪電気通信大学ホームカミングデー 開催のご案内

ホームカミングデーとは、卒業生のみなさまと本学の絆を深め、卒業生同士や在学生と親睦を深めることを目的としたイベントで、今年は「大学祭」及び「テクノフェア in ねやがわ」と同時開催いたします。

テクノフェアとは、最先端の科学技術を体験いただけるイベントです。当日はご家族揃って是非ご参加ください。

<開催日>　平成27年11月１日(日)
【大学祭　10月31日(土) ～ 11月１日(日)】

<場　所>　大阪電気通信大学　寝屋川キャンパス

※詳細は決まり次第、本学HP等でお知らせします。

お問合せ　**大阪電気通信大学**
大学事務局庶務課
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18番８号
TEL：072-824-1131（代表）　FAX：072-824-0014
HP：http://www.osakac.ac.jp/　E-mail：shomu@isc.osakac.ac.jp

平成27年度 O.E.C.U. Osaka Electro-Communication University

大阪電気通信大学 募集案内

資料請求・お問い合わせ：入試部
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8　TEL.072-824-1131(代)
e-mail:nyushi@isc.osakac.ac.jp　**http://www.osakac.ac.jp**

入試日程

試験種別		学　部(学科)	出願期間		試験日	試　験　会　場	合否発表日	入学手続期限
AO入学試験		工　学　部 情報通信工学部 金融経済学部	郵送出願: 9月17日(木)～9月30日(水) 消印有効		10月10日(土)	本　学(寝屋川キャンパス)	10月17日(土)	一括: 10月28日(水)
		医療福祉工学部 総合情報学部				本　学(四條畷キャンパス)		
得意科目セレクト入学試験 専門学科・総合学科特別入学試験		工　学　部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	●インターネット出願: 9月28日(月)0:00～ 10月7日(水)20:00まで 出願書類送付期限: 10月7日(水) 消印有効	●郵送出願: 9月28日(月) ～10月7日(水) 消印有効	10月18日(日)	本　学(寝屋川キャンパス)	10月24日(土)	1次: 11月 6日(金) 2次: 11月27日(金)
公募推薦入学試験 A・B日程		工　学　部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	●インターネット出願: 10月19日(月)0:00～ 10月28日(水)20:00まで 出願書類送付期限: 10月28日(水) 消印有効	●郵送出願: 10月19日(月) ～10月28日(水) 消印有効	A日程: 11月7日(土) B日程: 11月8日(日)	A・B日程:本学(寝屋川キャンパス) 京都・神戸・姫路・和歌山 A日程:広島・高松 B日程:岡山・徳島	11月18日(水)	1次: 12月 2日(水) 2次: 1月 8日(金)
一般入学試験	前期A・B日程	工　学　部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	●インターネット出願: 1月5日(火)0:00～ 1月20日(水)20:00まで 出願書類送付期限: 1月20日(水) 消印有効	●郵送出願: 1月5日(火) ～1月20日(水) 消印有効 ●窓口出願: 1月21日(木)	A日程: 1月31日(日) B日程: 2月1日(月)	A・B日程:本学(寝屋川キャンパス) 京都・神戸・和歌山 A日程:東京・金沢・姫路・広島・高松 B日程:名古屋・岡山・徳島・福岡	2月10日(水)	1次: 2月19日(金) 2次: 2月29日(月)
	前期センター方式		●インターネット出願: 1月5日(火)0:00～ 1月31日(日)20:00まで 出願書類送付期限: 2月1日(月) 必着	●郵送出願: 1月5日(火) ～2月1日(月) 必着	本学独自の学力試験はありません		2月13日(土)	1次: 2月29日(月) 2次: 3月 9日(水)
	後　期		●インターネット出願: 2月12日(金)0:00～ 2月23日(火)20:00まで 出願書類送付期限: 2月23日(火) 消印有効	●郵送出願: 2月12日(金) ～2月23日(火) 消印有効 ●窓口出願: 2月24日(水)	3月2日(水)	本学(寝屋川キャンパス) 京都・神戸	3月11日(金)	一括: 3月16日(水)必着
	後期センター方式		●インターネット出願: 2月12日(金)0:00～ 2月29日(月)20:00まで 出願書類送付期限: 3月1日(火) 必着	●郵送出願: 2月12日(金) ～3月1日(火) 必着	本学独自の学力試験はありません			
特別入学試験	帰国生徒 A・B日程	工　学　部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	郵送出願: 10月19日(月)～10月23日(金) 必着		A日程: 11月 7日(土) B日程: 11月 8日(日)	本　学(寝屋川キャンパス)	11月18日(水)	一括: 12月 2日(水)
	外国人留学生 I期A・B日程		郵送出願: 9月18日(金)～9月25日(金) 必着					
	社会人 A・B日程		郵送出願: 1月 5日(火)～1月12日(火) 必着		A日程: 1月31日(日) B日程: 2月 1日(月)		2月10日(水)	一括: 2月19日(金)
	外国人留学生 II期A・B日程		郵送出願: 12月 7日(月)～12月14日(月) 必着					

2014年度 退職者送別会

母校・大阪電気通信大学の2014年度退職者送別会が３月５日、大阪市北区のANAクラウンプラザホテル大阪で開催されました。

退職者

〈出席〉

岡崎　芳（電気電子工学科）
石井徳章（機械工学科）
小南昌信（通信工学科）
楓　大介（デジタルアート・アニメーション学科）
平井史郎（デジタルゲーム学科）
網屋雅信（法人事務局）
小島正治（教務課）
河内了輔（メディアコミュニケーションセンター）
森山雅文（実験サポート課）
高木一郎（寝屋川就職課）

〈欠席〉

竹山友子（AEセンター）
中川眞由美（資産運用学科）
吉野衣美（情報教育特任講師）
松嶋和幸（図書館）
北野智世（庶務会計課）
佐々木政美（エレクトロニクス基礎研究所事務室）
島田基光（四條畷就職課）

退職者入場

橘学長

石井教授

成瀬理事長

中井教授

花束贈呈

柴垣代表世話人

平成27年度　大阪電気通信大学

友電会 通常総会 合同懇親会開催

平成27年6月20日(土)　11:40～

於　寝屋川キャンパス エデュケーションセンター(J号館)

平成27年度 友電会通常総会

【開催概要】

テーマ **「飛躍」** ～半世紀を越えて更なる飛躍～

- 日　時：**平成27年6月20日(土)　10:00～15:30**
  受付開始　11:00～　友電会総会　11:40～
- 会　場：寝屋川キャンパス エデュケーションセンターJ号館
- 合同懇親会：緑樹会、クラブ同窓会、友電会3団体共催
- 会　費：3,000円（同伴者、学生、名誉教授、大学教職員は無料）

お知らせ　友電会平成27年度通常総会議事録は、総会終了後、すみやかに友電会ホームページで報告致しますので、ご覧下さい。

記念講演会

《講演者》

水本雅晴　先生

母校・名誉教授
ファジィ研究者

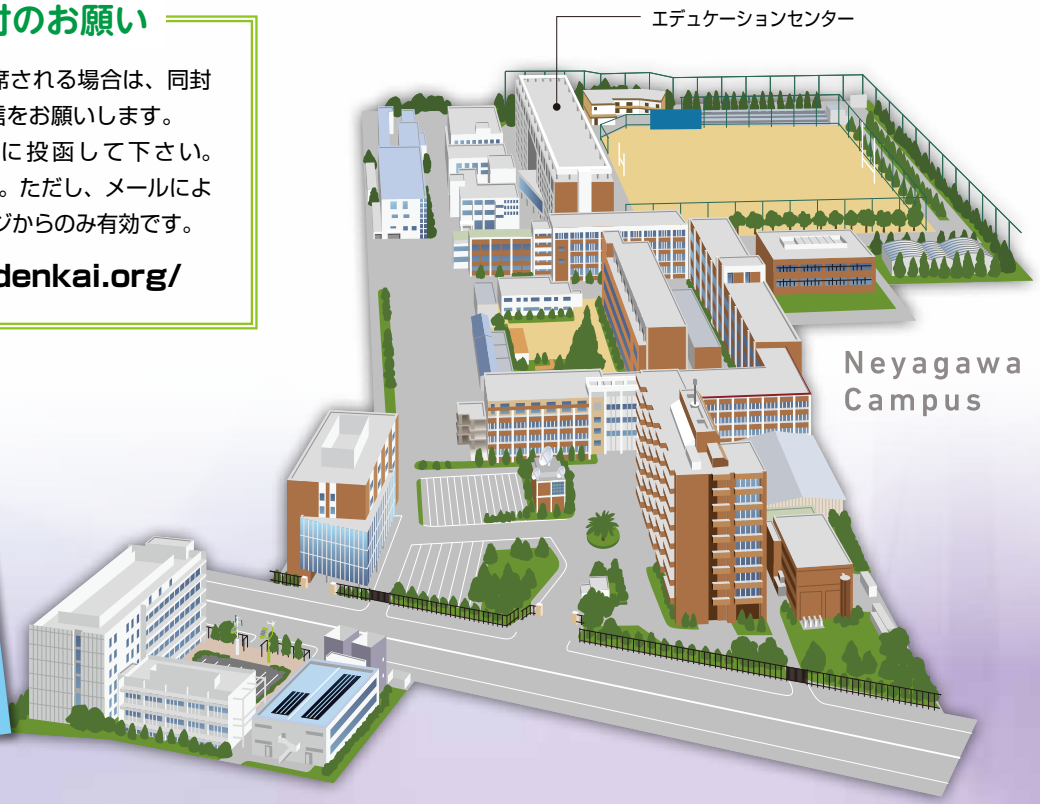
会　場：寝屋川キャンパスJ号館　510号室
12:30～13:20

テーマ：「ファジィよもやま話」
～黎明期、ファジィブーム、安定期を体験して～

《概要》　ファジィとは「あいまいなもの」と訳され、今ではファジィの言葉は一般に定着して列車制御、洗濯機など家電製品にファジィ制御が広く使われています。ファジィ制御にまつわるよもやま話を、易しくお話して頂きます。

出欠連絡と委任状送付のお願い

総会への出欠をお知らせ下さい。欠席される場合は、同封の委任状に必要事項をご記入の上、返信をお願いします。

郵送での返信は６月16日(火)までに投函して下さい。FAX・メールの返信は6月19日(金)まで。ただし、メールによる出欠委任状の返信は友電会ホームページからのみ有効です。

友電会　**http://www.yudenkai.org/**